特23
717

大阪府師範學校附屬小學校編纂

小學校教授細目

後期

大阪　寶文館藏版

424

特23
717

大阪府師範學校附屬小學校編纂

小學校教授細目

後期

大阪
寶文館藏版

明治
27 10 10
内交

小學校教授細目（後學期用）

目次

第一　修身科
一尋常小學科
二同　作法
三高等小學科
四同　作法

第二　國語科
一尋常小學科讀み方教材配當表
二尋常小學科
三高等小學科讀み方教材配當表
四高等小學科

第三　算術科
一用語諸形式
二尋常小學科（筆算珠算）
三高等小學科（筆算珠算）

第四　日本歷史科
一教材配當表
二細目

第五　地理科
一教材配當表
二細目

第六　理科
一教材配當表
二細目

第七　圖畫科
一尋常小學科
二高等小學科

第八　唱歌科
一尋常小學科
二高等小學科

第九　裁縫科
一尋常小學科
二高等小學科

第十　手工科
一細目

第十一　農業科

一教材配當表
二細目
第十二　商業科
一教材配當表
二細目
第十三　英語科
一細目
第十四　單級用教授細目
一修身科
二算術科
三圖畫科
四唱歌科

修身科教授細目

尋常小學科　後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

第一學年

週	教授細目
第二一週	行儀 5
第二二週	（連絡）朝夕の挨拶（尋讀二）
第二三週	
第二四週	（講堂修身）天皇陛下 3 1
第二五週	
第二六週	元氣よくあれ 3
第二七週	友だち（講堂修身） 1 3
第二八週	

第二學年

週	教授細目
第二一週	人のあやまち 2
第二二週	わるいすすめ 2
第二三週	規則（講堂修身） 1 3
第二四週	
第二五週	友だち 2
第二六週	物を粗末にあつかふな 2
第二七週	あやまち（講堂修身） 1 3
第二八週	

第三、四學年（男）

週	甲年	乙年
第二一週	自慢するな 3（連絡）カシノキトタケ（讀三）	智識をみがけ 2
第二二週	（講堂修身）度量を大きくせよ 1 2	迷信をさけよ 2
第二三週	健康（附說）兒童衛生心得（兒童必携簿） 3	（講堂修身）禮儀 4 1
第二四週		
第二五週	儉約 3	人の名譽を重んせよ 2
第二六週	（講堂修身）慈善 仁德天皇 4 1	（講堂修身）公益（附說）二宮尊德、河村瑞軒、 3 1
第二七週		
第二八週		

第三、四學年（女）

週	甲年	乙年
第二一週	自慢するな 2	智識をみがけ 2
第二二週	度量を大きくせよ（作法） 1 1	迷信をさけよ 2（作法）（講堂修身） 1 1
第二三週	（講堂修身）健康（作法） 1 2 1	（作法）禮儀 2 1
第二四週		人の名譽を重んぜよ 1
第二五週	儉約 2	（作法）公益（講堂修身） 1 2 1
第二六週	慈善（作法）（講堂修身）（作法） 1 1 1 3	（作法）博愛 2 1
第二七週		
第二八週		

作法科教授細目

尋常小學科第三、四學年(女)　後學期(十月十六日ヨリ三月末日マデ)　教授豫定時數凡十時間

學年	週	第三學年	第四學年
	第二週	授受進退(前ノ續キ)　(三時間ノ内一時間)	
	第二四週	行逢ノ禮 人ノ前ヲ過グル禮 上輩ニ逢ヒタルトキノ禮 同輩ニ逢ヒタルトキノ禮 途上及ビ階段廊下ニ於ケル心得　(四時間)	主客心得　(四時間) 來客ニ對スル心得(取次、案内、口上、送迎ノ心得) 客ノ心得(人ノ談話ヲ聞クトキノ心得、人ニ談話スルトキノ心得) 訪問ノ心得(時刻服裝ニツキテノ注意、案内ヲ乞フ心得、病氣見舞吉凶訪問ノ心得)
	第二六週		
	第二八週		主客心得練習及ビ膳ノ運ビ方　(四時間)
	第三〇週		

週	第三學年	第四學年
第二九週	うそをいふな3 (連絡)マタキチトガキク子供の火あそび(尋讀二)	拾ひもの　3
第三〇週	過をかくすな2	生きもの　2
第三一週	(講堂修身)人の妨をするな　3 1	(講堂修身)日の丸の旗　3 1
第三二週	自分の物と人の物3 (連絡)タキチトガキク(尋讀二)	天皇陛下 (連絡)天長節(尋讀四)　3
第三三週	生き物 (連絡)一次郎ノ犬二、小太郎ノ馬(尋讀二)　2	(講堂修身)勇氣　5 1
第三四週	(講堂修身)近所の人　2 1	人に迷惑をかけるな2
第三五週	人に迷惑をかけるな2	よい子供 (連絡)太郎(尋讀二) (講堂修身)　1 4
第三六週	よい子供 (講堂修身)　1 3	召使をあはれめ　2
第三七週	召使をあはれめ　1	(講堂修身)思を忘れるな　2 1
第三八週	(講堂修身)思を忘れるな　1 2	友だち　2
第三九週	友だち (作法)　1 2 1	人をそねむな2
第四〇週	人をそねむな2	禮儀 (講堂修身)　1 3
	(作法)禮儀 (講堂修身)　1 2 1	預り物　2
	近所の人　1	近所の人　2
	(作法)預り物　1 1	公益　2
	公益 (作法)　1 2	(講堂修身)復習　3 1
	(講堂修身)復習 (作法)　2 1 1	博愛 (連絡)法均尼赤十字社讀八　3
	兵役 (作法)　1 2	(講堂修身)兵役　3 1 (連絡)武雄の入營(讀八)
	(講堂修身)納税 (作法)　1 2 1	納税　2
	法令を重んぜよ　1	法令を重んぜよ　2
	教育 (作法)　1 2	教育 (連絡)第十三課(讀八)　2
	(講堂修身)議員選擧 (作法)　1 1 1	(講堂修身)議員選擧 (連絡)選擧(讀八)　3 1
	人は萬物の長　2	人は萬物の長　2
	男の務と女の務 (作法)　1 2	男の務と女の務　2
	(講堂修身)復習 (作法)　2 1 1	(講堂修身)復習　3 1

第三二週		
第三四週	既授ノ練習及ビ物品ノ進撤（五時間） 煙草盆、敷物ノ進メ方、 器具ノ取扱ヒ心得、 客ニ物ヲ進ムルニツキテノ心得、	主客心得ノ練習、膳ノ運ビ方心得、椀ノ蓋ノ取リ方、食事ニツキテ心得ノ大略、
第三六週		
第三八週		證書ノ受ケ方（二時間）
第四〇週		

修身科教授細目

高等小學科（男）　後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

學年／週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
第二一週	（講堂修身）禮儀 4 1	（講堂修身）人身の自由 3 1	（講堂修身）正直 2 1	（講堂修身）規律 2 1
第二二週				
第二三週	習慣 2	慈善 2	約束 2	自立自營 2
第二四週			度量 2	學理應用 2
第二五週	よき習慣を造る工夫（講堂修身）1 2	（講堂修身）天皇陛下 7 1	親切（講堂修身）1 2	（講堂修身）修德 3 1
第二六週	自立自營 3		慈善 2	自己の發達進歩 2
第二七週			正義と仁慈 2	
第二八週	規律正しくあれ 2	公民の心得 3	公衆 4	交際の心得 3

週	甲年	乙年
第二九週	（講堂修身）公益 5 1	（講堂修身）1
第三〇週		公衆衛生 3
第三一週	勤勞 2	公益 2
第三二週		産業を興せ（講堂修身）1 2
第三三週	（講堂修身）忍耐 3 1	産業に工夫をこらせ 2
第三四週	生き物をあはれめ 2	職業 3
第三五週	親切 2	僥倖（講堂修身）1 2
第三六週	（講堂修身）博愛 3 1	國民の務 3
第三七週		よき日本人 3
第三八週	祝日祭日 2	復習 3
第三九週		
第四〇週	復習 3	

週	甲年	乙年
第二九週	（講堂修身）1	社會の秩序 2
第三〇週		社會の進歩 2
第三一週	外國人（講堂修身）1 2	復習 2
第三二週		自己 2
第三三週	（講堂修身）身體 6 1	國民の務 5
第三四週		
第三五週		
第三六週		
第三七週		
第三八週		
第三九週		
第四〇週	復習 3	よき日本人 3

修身科教授細目

高等小學科（女）後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

第一、二學年

週	甲年	乙年
第一一週	（作法）禮儀 1 1	（作法）人身の自由（講堂修身）1 2 1
第一二週	（講堂修身）習慣 2 1	
第一三週	（作法）よき習慣をつくる工夫 2	（作法）慈善 2 1
第一四週		
第一五週	自立自營 2	（作法）天皇陛下（講堂修身）（作法）1 1 5 1
第一六週	（作法）（講堂修身）規律正しくあれ 2 1 1	
第一七週		
第一八週	（作法）2	公民の心得 2

第三、四學年

週	甲年	乙年
第一一週	正直（作法）1 1	規律（作法）1 1
第一二週	（講堂修身）（作法）1 1	（講堂修身）（作法）1 1
第一三週	約束（作法）1 1	自立自營（作法）1 1
第一四週	度量（作法）1 1	學理應用（作法）1 1
第一五週	親切（作法）1 1	修德（作法）1 1
第一六週	（講堂修身）（作法）1 1	（講堂修身）（作法）1 1
第一七週	慈善（作法）1 1	自己の發達進歩（作法）1 1
第一八週	正義と仁善（作法）1 1	交際の心得（作法）1 1

週	題目	時
第一九週	公益（作法）（講堂修身）	113
第二〇週	（作法）	
第二一週	勤勞（作法）	21
第二二週		
第二三週	忍耐（作法）	12
第二四週	はれものをあつかふ（講堂修身）（作法）（生き物）	121
第二五週	産業に工夫をこらせ（作法）	11
第二六週	職業	2
第二七週	僥倖（作法）	11
第二八週	國民の務（講堂修身）（作法）	121
第二九週	産業を興せ（講堂修身）（作法）	121
第三〇週	公益	2
第三一週	公衆衛生（講堂修身）（作法）	121
第三二週	（作法）	1
第三三週	職業（作法）	2
第三四週	産業に工夫をこらせ（講堂修身）（作法）	121
第三五週	國民の務（講堂修身）（作法）	121
第三六週	僥倖（作法）	11
第三七週	身體（作法）	11
第三八週	身體（講堂修身）（作法）	11
第三九週	身體（作法）	11
第四〇週	服裝容儀の心得	2
第一九週	公衆（作法）	11
第二〇週	社會の秩序（講堂修身）（作法）	11
第二一週	社會の秩序（作法）	11
第二二週	社會の進歩（作法）	11
第二三週	外國人（作法）	11
第二四週	自己（講堂修身）（作法）	11
第二五週	自己（作法）	11
第二六週	國民の務（講堂修身）（作法）	11
第二七週	議員選擧（作法）	11
第二八週	議員選擧（講堂修身）（作法）	11
第二九週	自治體（作法）	11
第三〇週	國民の務（講堂修身）（作法）	11
第三一週	國民の務（講堂修身）（作法）	11
第三二週	忠君愛國（作法）	11
第三三週	大日本帝國（作法）	11
第三四週	國民の務（講堂修身）（作法）	11
第三五週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三六週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三七週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三八週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三九週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第四〇週	復習	2
第三九週	祝日祭日（作法）	11
第三八週	博愛（講堂修身）（作法）	121
第三七週	博愛（作法）	121
第三六週	親切	2
第三五週	生き物をあはれめ（講堂修身）（作法）	121
第三四週	生き物をあはれめ（講堂修身）（作法）	121
第三三週	忍耐（作法）	12
第三二週	勤勞（作法）	21
第三一週	勤勞（作法）	21
第三〇週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二九週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二八週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二七週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二六週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二五週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二四週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二三週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二二週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二一週	公益（講堂修身）（作法）	113
第二〇週	公益（講堂修身）（作法）	113
第一九週	公益（講堂修身）（作法）	113
第四〇週	よき日本人	2
第三九週	よき日本人（作法）	11
第三八週	國民の務（講堂修身）（作法）	121
第三七週	僥倖（作法）	11
第三六週	職業	2
第三五週	産業に工夫をこらせ（作法）	11
第三四週	産業を興せ（講堂修身）（作法）	121
第三三週	公益	2
第三二週	公衆衛生（講堂修身）（作法）	121
第三一週	（作法）	1
第三〇週	職業（作法）	2
第二九週	僥倖（作法）	11
第二八週	身體（講堂修身）（作法）	11
第二七週	身體（作法）	11
第二六週	自己（作法）	11
第二五週	産業を興せ（講堂修身）（作法）	121
第二四週	外國人（作法）	11
第二三週	社會の進歩（作法）	11
第二二週	社會の秩序（作法）	11
第二一週	公衆（作法）	11
第二〇週	議員選擧（講堂修身）（作法）	11
第一九週	議員選擧（作法）	11
第四〇週	神佛及び墳墓に關する心得	2
第三九週	動物の取扱（作法）	11
第三八週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三七週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三六週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11
第三五週	動物の取扱（講堂修身）（作法）	11

欠

MISSING

作法科教授細目

高等小學科第一、二學年(女) 後學期(十月十六日ヨリ三月末日マデ) 教授豫定時數凡十時間

學年／週	第一學年	第二學年
第二一週	椅子ニ倚ル心得 (四時間) 上輩及ビ同輩ノ前ニテ倚ル心得	主客心得 (四時間) 取次、案内ノ心得、主客着座、應接、送迎ノ心得、 客ニ對スル心得(携帶品及ビ履物ニ對スル心得、人ノ談話ヲ聞ク心得、人ニ談話スルトキノ心得、招待シタルトキノ心得、) 訪問ノ心得(時刻、案内ヲ乞フコト、名刺ニツキテノ心得、集會ニ趣クトキノ心得、服裝ニツキテノ心得、病氣見舞吉凶訪問ノ心得、)
第二三週		
第二五週		
第二七週		

第二九週	杖傘ノ渡シ方受ケ方	（三時間）
第三一週		
第三三週		
第三五週	主客心得 椅子ニヨリ主客應接ノ心得、	（三時間）
第三七週		
第三九週		
	文箱及ビ料紙硯箱ノ進撤 硯箱ノ蓋ノ取リ方、 筆墨ノ取扱ヒ方、 借用品ニ對スル心得、	（六時間）

作法科教授細目

高等小學科第三、四學年（女）　後學期（十月十六日ヨリ三月末日マテ）　教授豫定時數凡二十時間

學年／週	第三學年		第四學年	
第二一週	主客心得 主トシテノ心得（室內及ビ器具ノ掃除並ニ整頓、挨拶ノ心得、談話ノ心得） 客トシテノ心得（床ノ拜見心得、挨拶ノ心得、食事ノ心得） 煙草盆、茶菓、膳ノ進撤練習、	（七時間）	饗應受饌 前ノ續キ練習、 既授ノ諸心得及ビ食事中忌ムベキコト等ノ復習 並ニ筆記、	（二十時間ノ內十時間）
第二二週				
第二三週				
第二四週				
第二五週				
第二六週				
第二七週				
第二八週	茶菓及ビ膳ノ進ノ方	（八時間）		

第二九週	抹茶、菓子、會席膳ノ進メ方、菓子ノ取リ方、食シ方、茶ノ飲ミ方、食事ノ心得、
第三〇週	
第三一週	
第三二週	
第三三週	
第三四週	
第三五週	
第三六週	茶席ニ入ル心得　（五時間） 床拜見、風爐釜拜見ノ心得、着席心得、主客應接ノ心得、主トシテ客ノ心得、茶ノ飲ミ方心得、
第三七週	
第三八週	
第三九週	
第四〇週	既授ノ練習及ビ一般心得　（十時間） 吉凶ノ禮ニツキテノ心得、 送葬ノ心得、會葬ノ心得、吊慰ニ行クトキノ心得、燒香ノ心得、供物ニツキテノ心得、 婚儀ノ式ニ忌ムベキ言葉遣ヒ、 凡テ時ト場合身分ニ應ズベキコトナルコトヲ談話ス

尋常小學科讀み方教材配當表　後學期

數字は教授豫定時數なり

週／學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
三五	次郎ノ犬 4			
	慾深イ犬 3	紀元節 4		
三六	小太郎ノ馬 4			
	馬ノ話 5	てがみ 7		
三七	復習 2	復習 1	草木ノカケクラベ 5	北海道移住者の話 5
三八	梅ト鶯 4	神功皇后 5	明治二十七八年戰役 11	ワガ國ノ物産 6
	鶯ト猫 5	奈良ノ大佛 5	臺灣 7	復習 1
三九	太郎ト次郎トノ毬遊ビ 5			選擧 5
	太郎ノ話 3	さる 4	北白川宮 3	帝國議會 5
四〇	復習 2	復習 2	砂糖 5	地球 12
			復習 2	復習 2

尋常小學科讀方教材配當表　後學期

數字は教授豫定時數なり

學年＼週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
二二	朝夕ノ挨拶 7	こたろーのむら 6	京都市 6	郵便 7
二三	菊 3	ウマトウシ 5	織物 8	新聞紙 6
二三	箱庭 4	富士山 4	稲かり 5	おふみの慈善 7
二四	人形 6	復習 1	復習 1	貯金 6
二四	復習 1	天長節 5	鎌倉 6	復習 1
二五	タキチトオキク 5	東京 10	元寇 3	工業 5
二六	稲 5	復習 1	石炭ト石油 6	燒物ト塗物 6
二七	楓 5	ほーねんまつり 5	ろーそくの話 6	武雄の入營 5
二七	オ客遊ビ 6	復習 1	復習 1	復習 1
二八	復習 2	がん 5	大阪市 6	軍人 4
二八	月ノ歌 3	ねこのめ 5	豐臣秀吉 10	赤十字社 5
二九	月ノ話 5	復習 1	どしのくれ 3	復習 1
三〇	算術遊ビ 5	そーじ 4	新年のいはひ 5	老人の話 16
三〇	子供ノ火遊ビ 5	かどまつのはなし 5	復習 2	復習 1
三一	拗音ノ練習 1	マツノハナシ 8	商業 6	明治維新前ト明治維新後 7
三一	復習 2	復習 1	兎 4	わが帝國 5
三二	一月一日 5	ゆき 6	銅と鐵 8	復習 1
三三	紙鳶ノ歌 3	紀元節 4	草木ノカケクラベ 5	北海道移住者の話 5
三三	紙鳶ト鳶トノ話 4	てがみ 7	復習 1	ワガ國ノ物産 6
三四	オハナト鶏 3	復習 1	明治二十七八年戰役 11	復育 1
三四	鶏ト鶯トノ話 3	神功皇后 5	臺灣 7	選擧 5
三五	次郎ノ犬 4	奈良ノ大佛 5	北白川宮 3	帝國議會 5
三五	慾深イ犬 3	さる 4	砂糖 5	地球 12
三六	小太郎ノ馬 4	復習 2	復習 2	復習 2
三七	馬ノ話 5			
三七	復習 2			
三八	梅ト鶯 4			
三八	鶯ト猫 5			
三九	太郎ト次郎トノ毬遊ビ 5			
四〇	太郎ノ話 3			
四〇	復習 2			

國語科教授細目

尋常小學科第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

教授事項及其注意　豫定時數　讀み方、話し方、綴り方、書き方　百二十時間　六十時間

週	讀み方	綴り方	書き方
第二一週	一　朝夕の挨拶（七時間） 形式〔アイサツ、シテ井マス、シマシタ〕區別 〔オトウサン、オカアサン、オハヤウゴザイマス、「……」の記號〕 實質〔一　唆起の心得、二（連絡）行儀（尋修一）〕	アサノアイサツ、ネルトキノアイサツ、タロー、オチヨ、	材料（五時間）一。二。三。四。五。六。
第二二週	二　菊（三時間） 形式〔オホキウゴザイマス、チヒサウゴザイマス、〕 實質〔菊の種類及び生育等の説明、〕	キクノハナ、	材料（四時間）タロー。オチヨ。
	三　箱庭（四時間）	ハコニハ、	

第二三週

四　人形（六時間）

形式
- コレハ、コノ、モ、ヤマデス　ヤマデアリマス　区別
- 山川の景色、

實質
- 庭につきての説明、

ヤマ、
ハシ、

第二四週

復習（一時間）

實質
- 説弄物の取扱、
- 人體及び着物の部分名稱、

ニンギョー、
キモノ、

五　タキチトオキク（五時間）

形式
- タマス、
- トリカヘマシタ、トリカヘテ井マス、区別
- アマウゴザイマス、アマウゴザイマシタ、区別

タキチ、
オキク、
カキ、

カハイラシイ　ニンギョー　ナゴランナサイ、
ネエサン、マイニチ、
ワタクシハ、オカアサン　ヤ　ネエサンニ、
マイニチ、カハイガッテモラヒマス、
カハイガッテモラヒマス　区別
拗音ノ練習

材料（四時間）
ニハ。ヤマ。
ハシ。

第二五週

實質
- 柿についての説明、
- 詐欺の最も悪しき行爲たることを知らしむ、
- 兄弟相互の心得、

六　稲（五時間）

形式
- オトウサン。アレ　ハ　ナント　イフ　クサ　デゴザイマス　カ。
- ワタクシドモ、
- 、ワタクシドモ　ガ、タベル　コメ　ハ、アノ　ミカラ、トルノデス。
- 、アノミ　カラ、ワタクシドモ　ノ　タベル　コメハ、トルノデス。
- 、アノミ　カラ、ワタクシドモ（ワタクシラ）ノタベルコメガ、トレルノデス。

問答の仕方

實質
- 稲の實物、
- 稲の收穫につきての説明、

イネ、
コメ、

第二六週

七　楓（五時間）

形式
- ソレニ、ハジメ　ニハ、コノゴロ、ホカノニ、
- イロチツケテ井マス、イロチツケマシタ、区別

實質
- 楓葉の形及び變色、
- 手工上の興味を起さしむ、
- 色鉛筆の取扱、

モミヂ、
イロエンピツ、
オハナ、

材料（四時間）
イネ。コメ。
ムギ。

第二七週	八 オ客遊び（六時間）	オハナトオチヨ、	材料（四時間）モミヂノエダ。
	形式 オキヤクアソビ、「ゴメンクダサイマセ」「アー。オチヨサン デス カ。ヨク、イラッシャイマシタ。」オハナ ハ オチヨ ヲ、ザシキ ニ トホシマシタ。「ドウゾ、オチャヲ オアガリクダサイマセ」		
	實質 ㊀家屋内の名稱、㊁訪問するときの心得、㊂來訪者に對する心得、㊃（連絡）行儀（尋修一）		
第二八週	復習（二時間）		
	九 月の歌（三時間）	オツキサマ、	材料（四時間）ツキ。ソラ。ヨル。
	形式 ゴランヨ、モリ 韻文の讀み方		
	實質 月に關する説明、		
第二九週	一〇 月の話（五時間）	ツキミノバン、	
	形式 マックラ、イソイデ ナキダシマシタ ナキマシタ 區別		

	實質 ㊀外出の心得、㊁恩人に對する心得、㊂親月につきての説明、		
第三〇週	一一 算術遊び（五時間）	イロイロノアソビ、	
	形式 サンジュツアソビ、ウチ オトシマシタ、問答の仕方、		
	實質 ㊀島の常習、㊁鐵の構造、㊂遊の仕方、		
第三一週	一二 子供の火遊び（五時間）	ワルイアソビ、	材料（四時間）テッポー。ユミ。ヤ。
	形式 アルヒ、スッテ、ナゲル、コドモ ハ、アッチ ヲ スッテ、ソレヲ アソンデ居マシタ。		
	實質 ㊀マッチの製造、㊁火の用心、㊂危險物の取扱、		
	一三 拗音の練習（一時間）		材料（四時間）ショージ。ビョーブ。
	復習（二時間）		
	一四 一月一日（五時間）	カドマツ、	

第三二週	一五 紙鳶の歌	形式〔一コノエチゴランナサイ、二シメナハ モ ハッテアリマス。コッキモ タテテアリマス、三コレハ 一ガツ一ニチノヨース チカイタエデス。〕 實質〔國旗及び門松の説明、〕	(三時間)	コッキ、 一ガツ一ニチ、
第三三週	一六 紙鳶と鳶との話	形式〔ウンドーバ、オドロク、オヤ、〕 實質〔一紙鳶の拵へ方、二鳶の常習、〕	(四時間)	タコ ト トビ、
第三四週	一七 鷄	形式〔カケテキマシタ カケテイキマシタ〕區別 實質〔鷄の常習、モ、〕	(三時間)	オハナ、 ニハトリ、
	一八 鷄と鷲との話	形式〔ハバタキ、〕	(三時間)	ニハトリ ト ワシ、

	材料 (四時間)	キュース。 チャワン。		
	材料 (四時間)	アガレ。 エダコ。		

	實質〔一鷲の形態常習、二慢は損を招く、〕		(四時間)	
第三五週	一九 次郎の犬	形式〔イツモ ジャレツキマス〕 實質〔一犬ノ常習、二博愛の道、〕	(四時間)	ジロー、
	二〇 慾深い犬	形式〔ソノカゲ、ホエル、〕 實質〔一自他の物を明にすべし、二大慾は無慾に似たり、〕	(三時間)	ヨクノ フカイ イヌ、
第三六週	二一 小太郎の馬	形式〔ウマキ、マゲサ、サイソクス、〕 實質〔一馬の常習、二博愛の道、〕	(四時間)	コタロー、
第三七週	二二 馬の話	形式〔ワタッテキマシタ ソタッテイキマシタ〕區別 〔シホダハラ、ツケテアリマシタ、ナカホド、ツマヅイテタフレマシタ、ワザト、〕	(五時間)	ウマ、 シホ、

	材料 (四時間)	ヲンドリ。ヘイ。		
	材料 (三時間)	イヌノセナカ。		
	材料 (三時間)			

實質
一食鹽の性質、效用、
二生物に對する心得、
三己が職分を守ること、

復習（二時間）

第三八週

二三 梅と鶯（四時間）

形式
アタタカ、ウメガサキダシマシタ、マフ、

實質
一梅の枝及び鶯の標本、
二鶯の形態常習、
三梅の部分と生育の狀態、

材料（三時間）
ウマヤ。
マグサ。
ウメ、
ウグヒス、

第三九週

二四 鶯と猫（五時間）

形式
カフ、アルトキ、シンセツサウ、モシ、ゴビョーキナラ ワタクシガ ミテアゲマセウ、スルト、オカマヒクダサイマスナ、

實質
一猫の形態常習、
二病氣に罹りしときの心得、

材料（三時間）
サカナ
ノカグ。
ネコ、

二五 太郎と次郎との毬遊び（五時間）

形式
アル ニチヨービ、ウケソコナヒマシタ、ヒドク、ミナサン、ナグサメマシタ、

實質
一兄弟相互の心得、
二勇氣の必要、
三（連絡）元氣よくあれ（尋修一）

材料（三時間）
トリガキマス。
タロー、
ジロー、

第四〇週

二六 太郎の話（三時間）

形式
マモッテ、タローハ キット、カシコイ ヒトニ ナリマセウ、

實質
一太郎の如く父兄師長に從順たらしむべし（校訓）
二（連絡）よき子供（尋修一）

材料（三時間）
七。八。九。十。

復習（二時間）

國語科教授細目

尋常小學科第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

週	教授事項及其注意	豫定時數	綴り方	書き方
第二一週	**讀み方** 第一課　こたろーのむら（六時間） 形式｛村、百五十けんほど、かはらやれ、村役場、駐在所、そんちょー、ときどき、しんせつ、せいと、はやりやまひ、家でも、あんしん、しあはせ　では　ありませんか、 實質｛一地理的觀察、二自治制の説明、三公共物の建物、	讀み方　百時間 話し方　十時間 綴り方　五十時間 書き方　六十時間	この學校、巡査、	材料（五時間）そんちょー。村のせわ。
第二二週	第二課　ウマトウシ（五時間） ウマガカッテアリマス ウマガカッテアリマシタ｝區別 形式｛タッシャ、ニモツ　ヲ　ハコンダリ、車　ヲ　ヒイタリ、マケサ、牛、力、ヨージョー、イネ　ヲ　カリイレル、		まつたけ、牛、馬	材料（四時間）ツヨイ牛。
第二三週	第三課　富士山（四時間） 實質｛一牛馬の形態常習及び效用、二農業上の説明、三（連絡）コタローノウマ（尋讀二）		富士山、	車ヲヒク。
第二四週	復習（一時間）			
第二五週	第四課　天長節（五時間） 形式｛生、こっき、てんのーへいか、こーごーへいか、太郎、あつめて、かんべいしき、 實質｛一觀兵式の説明、二天長節の由來、三軍事思想の養成、		きく、天長節、	材料（四時間）田に人や牛がゐる。
第二六週	第五、六課　東京（十時間） 形式｛キュージョー、日本、テンノー（イカノオスマヒニナルゴテンノコトデス、ドーゾ、リョーカヘ、デンシャ、マタ、店、コノ、タテモノ、池、寺、ココモ、花、		キュージョー、東京ノ銀座通、	材料（四時間）高い山。なつのゆき。

第二七週	實質 一宮城及び東京市の模樣を知らしむ、二(連絡) 宮城(尋修一)		東京、
	復習 (一時間)		
第二八週	第七課 ほーねんまつり (五時間) 形式 宮、こみあってゐる、米、すまふ、女の子が おかあさん に て を ひかれて、おかあさん が 女の子 の て を ひいて、 韻文の讀み方 實質 一豐年の說明、二稻作の模樣、三祭日の心得、四神社佛閣に對する心得、	材料 (四時間) 太郎ノ家。大キナ店。	友だち、ほーねんまつり、米、
第二九週	第八課 がん (五時間) 形式 月夜、空、羽、みづかき、池、 とんでいく / とんでくる / とんでゐる 區別 實質 一雁の形態常習、二候鳥の說明、	材料 (三時間) 米はいねからとる。	がん、あひる、
第三〇週	第九課 ねこのめ (五時間) 形式 ふさぎませう、ゐんがは、毛色、わかりますまい、ひとみ、あかるいところ、 はりのよーに ほそながく、きゅーに、見、	材料 (三時間) 空に月がでてゐる。	ねこの目、ねこ、
		材料 (四時間)	

	實質 猫の形態 常習、		女の子。毛絲をあむ。
	復習 (一時間)		
第三一週	第十課 そーじ (四時間) 形式 はうき、ごーぐ、机、べんきょーしませう、 實質 一掃除の仕方、二衞生上の心得、	材料 (四時間) 池田。高木。宮川。大寺。	そーじ、
第三二週	第十一課 かどまつのはなし (五時間) 形式 きょーねん、十二月三十一日、石、絲、たてられました / たちました 區別 ほどいてあげなさいました / ほどいてあげました 區別 實質 一兄弟相互の心得、二元日の有樣、	材料 (三時間) 小サナ松ノ木ノ林。	かどまつ、
第三三週	第十二、十三課 マツノハナシ (八時間) 形式 タイテイ、林、小サナ松、マモナク、金、草、コエヲタテテ、靑、 實質 一門松の說明、二松の生育する有樣、三他人の美を奬望せざること、	材料 (四時間)	マツ、

第三四週	復習	（一時間）	
第三五週	第十四課　ゆ　さ 形式　雨、はなびら、じめん、白、雪が、五寸ほど、つもりました、耳、目、にはさき、にほひは、がげず、手、足、こゐて、やせて、 實質　一降雪の樂、二雪の觀察、	（六時間）	雪ふり、 雪カッセン、 雪だるま、 雨がやむ。 雪がふる。
第三六週	第十五課　紀元節 形式　天皇、まうす、わが國、西、東、日本中、 實質　一祝日の心得、二紀元節の由來、	（四時間）	日の丸のはた、 紀元節、 材料（三時間）耳できく。目で見る。
第三七週	第十六、十七課　て　が　み 形式　出、いちごも、たもふ、ごらん、手紙、犬が　大そー　ほゐました、書、入、「……」の記號 實質　一郵便に關する說明、二手紙の目的、	（七時間）	おとうさんのびょーきをしらす、 材料（三時間）日本のおいはい日。 材料（四時間）手紙ヲ書イテ出ス。
	復習	（一時間）	

第三八週	第十八課　神功皇后 形式　ワガママ、オカクレニナリマシタ、神功皇后ハ男ノフーチシテウミチワタリテソノガイコクヲセメニオイデニナリマシタ、マイトシ、ヤクソク、 實質　一三韓征代の概要、二愛國心の養成、	（五時間）	神功皇后、
第三九週	第十九課　奈良ノ大佛 形式　アルガイコク、五丈三尺、名高　ソノコロ 實質　一寺院に關する說明、二奈良市の說明、	（五時間）	奈良ノ大佛、 天王寺ノツリガネ、 材料（四時間）金子。石川。西山。青木。
第四〇週	第二十課　さ　る 形式　枝、すまってゐる、きのみ、それですから、しこみます、ねぼし、はやします、はじめて、 實質　一猿の形態性質及び常習、	（四時間）	さる、 よい子供、 材料（四時間）大。小。丈。尺。寸。青。赤。白。
	復習	（二時間）	

國語科教授細目

尋常小學科第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

教授事項及其注意　教授豫定時數（讀み方 百二十時間　話し方 十時間　綴り方 五十時間　書き方 八十時間）

週	分科	讀み方	綴り方	書き方
第二一週	第一課　京都市 形式 一千年アマリ、市、社、文語文の練習、 實質 一京都市の地理的觀察、二京都市の地圖、（六時間）	京都ノ名所、		材料（五時間）名高い社や寺がある。
第二二週	第二課　織物 形式 絹織、生絲、練絲、羽織、綿、着物、麻、どんな御用でもたしてまいります、ごゑんりょなくさぞ、ごめいわくなことだらうとはおもひますが、貳拾圓、代金、文語文の練習 實質 一織物の標本、二織物の種類及びその原料、三人に依頼するときの心得、四人に依頼されたるときの心得、（八時間）	綿、ひつじ、織物、友に買ひ物を頼む、同返事、		材料（七時間）羽織。着物。絹。木綿。毛織。麻。
第二三週				

週	讀み方	綴り方	書き方
第二四週	第三課　稲かり 形式 稲がみのって、きいろくなってゐた、めづらしさうに、やがて、てかず、次のよーに、いねこき、そまつ、文語文の練習、 實質 一稲の收穫の有樣、二稲より白米になすまでの手數、（五時間）	白米、稲かりに人を頼む、	材料（五時間）きょーとに何かかひものの御用はございませんか。白ちりめんの代金貳拾圓おうけとりください。
第二五週	復習（一時間） 第四課　鎌倉 形式 今カラ、兄、弟、武士ノカシラ、タエル、元、國、行、文語文の練習、 實質 鎌倉の景色　沿革等の說明、（六時間） 第五課　元寇 形式 十餘萬、日本男子、くつがへり、祖文の讀み方、 實質 一愛國心の養成、二（連絡）愛國（尋修四）（三時間） 第六課　石炭ト石油（六時間）	貝原益軒、鎌倉の景色、日本男子、	材料（三時間）兄弟ナカヲヨクナサイ。

第二六週	第七課　ろーそくの話（六時間）	形式 外國ヘモ賣リ出ス、ヤッパリ、 文語文の練習 實質 石炭及び石油の原料產地等の說明、	石炭ノ效用、 石油、	材料（五時間） 日本男子。 勇ましい軍人。
第二七週		形式 はぜ、やくめ、不便、ちょーほーなもの、 むしやき、電氣ごいふものを おこして、 人のあんないをします 文語文の練習 實質 一蠟燭、種油、石炭瓦斯の原料及び製法、 二文明の發達、	ろーそく、 電氣燈、	材料（五時間） 石炭。石油。 外國。賣る。 買ふ。
	復習（一時間）			
第二八週	第八課　大阪市（六時間）	形式 入海、里、南、堀、通ッテヰル、品物、便利、 サカン、マタ、工業、 文語文の練習 實質 一大阪市の商業、 二大阪市の地勢、	儉約、 大阪市、	材料（四時間） 堀ガ市中ヲ通ッテヰル。
第二九週	第九、十課　豐臣秀吉（十時間）			

第三〇週		形式 北條氏、オコッタ、アトニ、足利氏、ドキョー、 ヒキアゲラレテ、テキチヤブル、人ニタットバレタ、 ソチム、ホロボス、セメイッタ、 支那ノヘイタイチモ、 文語文の練習、 實質 一豐臣秀吉の人物、 二國威の發揚、 三昔の英雄豪傑、	豐臣秀吉、 豐國神社、	材料（五時間） 市の中には大いなる堀いくすぢも通れり。 されば舟にて品物をはこぶにははなはだ便利なり。
第三一週	第十一課　ごしのくれ（三時間）	形式 韻文の讀み方、 文語文の練習、 實質 一年末の景況、 二勉學心を起さしむ、 三四季の變遷、 四（連結）四季（尋讀七）	年末の景況、 冬ノ景色、 時間ををしめ、	材料（六時間） 父。母。兄。弟。 姉。妹。新年。 祝日。
	第十二課　新年のいはひ（五時間）	形式 文、新年、そーに、祝の式、明治、遊、 文語文の練習、 年賀狀の認め方、 實質 一新年の景況、 二新年祝祝の服裝、 三一年の計は元旦にあり、	元旦、 年賀狀、	

第三二週	復習	(二時間)	
第三三週	第十三課 商業 形式 見習、主人、ひま、ていれい、商業、呉服屋、ぬなか、こんな、問屋、卸賣、正直、錢、 實質 一商業の分業、二商人たるもの、心得、	(六時間)	奉公人の周旋を頼む、 商業、
第三四週	第十四、十五課 銅と鐵 形式 銅、銀、美、くらべものにはならん、鐵、刀、こしらへるにこそつかはれんが、もっともなので…… 實質 一會議の仕方 二貨幣制度の大要 三銅及び鐵の效用	(八時間)	借家を頼む、 貨幣、
第三五週	第十六課 兎 形式 ハナハダ、ウハクチビル、短、食、アラス、冬、肉、味、 實質 兎の形態、常習及び種類	(四時間)	友だち 兎、
	第十七課 草木ノカケクラベ 形式 カケクラベ、フモトカラチョージョーマデ、草ハトテモ、寒、強、オドロイタ、ソレハソレハ、人ノキヅカン、 實質	(五時間)	

材料 (六時間) 主人。品物。商業。見習。正直。

材料 (五時間) 金物屋の店。金。銀。銅。鐵。

材料 (五時間) 牛。馬。鳥。魚。肉。卵。食ふ。飲む。

第三六週	實質 一氣温と植物分布との關係、二人を侮るべからず、三(連絡) 材木(尋讀五)		苔、
第三七週	復習	(一時間)	
	第十八、十九課 明治二十七八年戰役 形式 そーどー、約束にそむく、清國の陸軍をうちしりぞけて……さんざん、やぶれてのちは、守る、にはかに、使、申しこみました、金、後、北、 實質 一日清戰爭の原因結果等の說明、二愛國心の養成、三(連絡) 黃海の戰(尋讀五)	(十一時間)	明治二十七八年戰役、
第三八週	第二十課 臺灣 形式 モットモ、ハナハダ、暑キトコロ、土地マタコエタレバ、サレバ、茶ナド、臺灣ハモト清國ノ島ナリシガ、何枚、日用文の書き方 實質 一臺灣の氣候及び産物等の說明、二臺灣神社の說明、	(七時間)	近所の人、 臺灣、
第三九週	第二十一課 北白川の宮	(三時間)	

材料 (四時間) 次郎黑キ毛ノ筆ヲ買フ。

材料 (五時間) 一。十。百。千。萬。日。月。火。水。木。金。土。年。月。時。東。西。南。北。外國に賣り出すおもかる物。生絲。絹織物。米。石炭。

材料 (四時間) 約束は守らねばならん。

	形式 多くの軍人、食たらず、道、ふと、をしや、かくれなされたり、韻文の讀み方、 實質 一北白川宮の御功績、二忠君愛國心の涵養、三皇室に對する心得、	到來品を贈る、同返事、北白川宮、	材料（六時間）天。地。風。雨。雲。雪。海。陸。島。岡。
第四〇週	第二十二課 砂糖と鹽（五時間） 形式 砂糖ハ タイテイ サトーキビヨリ製ス、ソダツ、汁、用、ソレノミナラズ、カクテ、サラセバ、 實質 砂糖、食鹽の原料及び製法、	砂糖、鹽、	
	復習（二時間）		

國語科教授細目

尋常小學科第四學年 後學期（十月十六日より三月末日まで）

教授事項及其注意　教授豫定時數（讀み方 百二十時間　話し方 十時間　綴り方 五十時間　書き方 八十時間）

分科／週	讀み方	綴り方	書き方
第二一週	第一課 郵便（七時間） 形式 番、時候みまひ、近所、御苦勞、いよ〳〵、自由、賴、わざ〳〵、わづかの錢、たより、ふつー、通常、ふーとー、用事、商品、送、以下、かぎって、 實質 一郵便發達の沿革、二郵便物に關する規定の大要、	郵便、	材料（七時間）用事。封書。はがき。荷物。小包。貫匁。
第二二週	第二課 新聞紙（六時間） 形式 千里、新聞紙、ちょーほーな、火事、善事、惡事、明かな、韻文の讀み方、拜啓、廣告、承知、貳、參、以上、拜復、通運、運送料、品物注文の文及びその返事文の認め方、 實質 一新聞紙發刊の目的及びその效用、二新聞紙の種類、三品物注文の心得、	小包を送る、同返事、	
第二三週		品物の注文、同返事、新聞紙、	材料（五時間）拜啓。この度御店にて改良釜賣出に

第二四週

第三課　おふみの慈善　（七時間）

親、次の記事をかゝげたり、ミーわくしたれども、せんかたなかしりかば、からくもその日を送りたり、いかに苦しかりしならん、

形式
- すゝめハれんごろに介抱す、思ひては泣きたり、年頃の苦勞のつもりたるにや、亟へて、ねたる錢、外に出ることをも止めたり、へいぜい、こゝろがけて、ためたる錢、あたへんことを相談したり、慈善、たづれて、與へ、ミこの中、手を合せて、

實質
- 一交母の恩、
- 二貯金の必要、
- 三慈善心の養成、
- 四（連絡）慈善（尋修三）

おふみの慈善、

第四課　貯金　（六時間）

形式
- 貫錢ヲエタルモノモアルベシ、ケッシテ、無益ニ、ツカフベカラズ、スコシノ錢ニテモ、貯蓄シテユカバ、ソヒニハ、オビタダシキ、タカトナルベシ、カクナラバ、ウベク、サイナン、マタ、安全、預、取扱、スコブル、ビレイナルモノ、マシユク、樂、ナニホド、置カザルベカラズ、

實質
- 一貯金通帳の取扱、
- 二勤儉貯蓄の必要、

貯金、
貯金を勸む

あひなり候由新聞にて承知いたし候。さっそくためしみ度候間この手紙着きしだい御送り下され度候。右代金貳圓參拾錢郵便小爲替證書として封入いたしおき候。以上

月日
商店御中

材料（七時間）
新聞紙の記事。
親子。苦勞。感心。

第二五週

三貯金するにつきての心得

復習　（一時間）

第五課　工業　（五時間）

形式
- 仕事、たとへば、反物、木綿絲は、きわたの實の中にある綿をほぐして、つむいだものである、非常な手數、ならやふし。蒸氣力、

實質
- 一機械の效力、
- 二衣服の原料及び製法、
- 三工業の發達、

工業、

第二六週

第六課　燒物と塗物　（六時間）

形式
- ワガ國ノ機械工業ハ、イマダ、サマデ、進マザレドモ、コトニ、粉、思フママ、組ム、クル、塗ル、品物　借用の文　及びその返事文の認め方、不足、拜借、願はるまじく候や、粗末、御まにあはせ下され度候、敬具、

實質
- 一燒物及び塗物の標本、
- 二燒物及び塗物の製法、
- 三品物貸借上の心得、

燒物、
塗物、
品物の借用、
同返事。

第二七週

復習　（一時間）

材料（四時間）
無益に金錢をつかふべからず。

材料（五時間）
拜啓。明後日客來あるはずに候ところ持合のみにては不足いたし候につきせんわんとりそろへ五人前拜借願はるまじく候や御伺ひ申上候。敬具。

月日
樣

第二八週

第七課　武雄の入營　（五時間）

形式
合格、不合格、入營、したく、國家、戰爭、
いっしょーけんめに、はたらいて、日本男子のうで
まへ　を見せてやりませう、
天皇陛下、村の人たちのよろこび、殘念、

實質
一日本男子の精神、
二徵兵令の大要、

日本男子の精神、
入學を賀す、
留守見舞、
火事見舞、
戰死者を吊ふ、
軍人、
義捐金を贈る、
角倉了以、
赤十字社、

材料（四時間）
國家ノタメニ家ヲ忘レ身ヲ忘ル。

第二九週

第八課　軍人　（四時間）

形式
忠義の心、軍刀霜のごとく、いはよりかたし、
列をもくづさず、どどろく、へさきそろへて、
白波けたてて、

實質
一日本軍人の氣象、
二忠義心の養成、

第九課　赤十字社　（五時間）

形式
戰場、忘、傷、病ニカカリ、サベツ、救フ、博愛、
戰オコル、約束ヲトリカハス、組合ヲマウク、
御保護ヲアフグ、贊成、

實質
一赤十字社組織の一般、
二博愛心の養成、

材料（七時間）
戰爭。軍人。傷。病。赤十字社。救助。

復習　（一時間）

第三〇週

第十、十一、十二課　老人の話　（十六時間）

形式
一老人、同じ級の友だち、をさむ、大將、
をさない時、倍、働、それむ、ほろぼす、大名、
役所、
二晩、政事、お心にかなはせられない事、兵隊、
租税、みことのり、
井伊直弼は、ヒーヒー、天皇のおさしづをも待た
ずに、外國に、貿易を許すことにした、
日本は、まるで、湯がにゐかへるよーなさわぎで
あった、
祝儀、おとへてきた、
三集、新、勢、困、負、悲、いっさい、
いかがでございますか、忠告、武士、息、

實質
一日本地圖、
二德川家康の事蹟、
三明治維新前の政事、
四德川の末路、
五西郷隆盛の功績、

公益、
德川家康、
西郷隆盛、
兵役、

第三一週

第三二週

復習　（一時間）

第十三課　明治維新前と明治維新後　（七時間）

一吹、オンミヅカラ、ホトンド、マッタク、
諸子ニ示サン

材料（七時間）
大切。粗末。必要。無用。多少。不足。

材料（四時間）
小太郎ハアル土曜日ノ晩同ジ級ノ友ダチ四五人トアルモノシリノ老人ノウチヲタヅネタ。

第三三週	形式	二府、縣、郡、知事、 三區別、イチヨーニ、租稅チチサム、 四高キ官ニツク、家柄、學門、才德サヘアレバ、 五正シカラザルコトアリ、 六交際、 七ハナハダ、不便ナリ、實業學校、 八軍備、不十分、トトノヒ、訓練、オヨソ堅固ナリ、 九航海、音信、スベテ、要ス、シトケ、 一〇風俗、ノベガタシ、勉メハゲミテ、	ソノ時小太郎タチハ老人カラ昔話ヲ聞イテ日本ノ政事ハ明治イシンノ前六百七十年ノ間武士ガ取扱ッテキタモノダトイフコトヲ知ッタ。
	實質	一政事の變遷、 二明治維新後は階級の制度を廢せらる、 三現時は人才の、 四法律の確立、 五外國との貿易、 六學校の種類、 七軍備の整頓、 八交通機關の完備、 九風俗の沿革大要、 一〇明治の民の幸福、	明治の民の幸福、
第三四週	第十四課　わが帝國（五時間）		
	形式	例を見ざるなり、 韻文の讀み方、 （連絡）大日本帝國（舊讀本卷五）	材料（四時間）「封筒及びはがきの書き方」

	實質	一日本地圖 二わが國體の世界無比なることを知らしめ同時に愛國の志氣を旺盛ならしむ、 三地理上の觀察、	わが國體、 わが帝國、
	復習（一時間）		
第三五週	第十五課　北海道移住者の話（五時間）		
	形式	一住、荒、歩、誰ぞも、恐、	北海道、
	實質	一北海道の地圖、 二北海道の形勢氣候及び物產等の說明、	材料（六時間）北海道ニ移住シテ土地ヲ開ク。
第三六週	第十六課　ワガ國ノ物產（六時間）		
	形式	オホムネ、土地肥エタレバ、タクミ、製作品ノ精巧、ソノ產額ハルカニコエタリ、	わが國ノ物產、
	實質	一日本地圖、 二產物の標本、 三氣候及び地味と物產との關係、	
	復習（一時間）		
第三七週	第十七課　選擧（五時間）		
	形式	村會議員、ゐらぶ、費用、席、相談、役場、もし、めいわく、	村會議員、議員の當選を賀す、
			材料（六時間）織物。燒物。塗物。製作品。輸出。

第三八週	第十八課 帝國議會 (五時間)	實質 (一市町村 二自治制の大要) 形式 (仰、フツー、定、イッサイ、實地、シタシラベ、トリモナホサズ、タメシノナイコト、) 實質 (一中央政府と帝國議會との組織、二日本帝國の憲法の大要、三わが國體、)	卒業を賀す、同返事、帝國議會、
第三九週	第十九、二十課 地球 (十二時間)	形式 (一なほ、他、平たき、圓、話、語、ふたゝび、地球をかたどり、教師、れっしん、衰、榮、生徒、しかるべし、二廣、週、去、遂、渡、いづれも、發、首府、技術、つけくはへて、) 實質 (一世界地圖及び地球儀、二地球の形態及び水陸の分布、三世界の主なる國の國勢、四世界各國の位置と文野との關係、五愛國の志氣を鼓舞せしむ、六(連絡) 賀島(尋修七))	地球の圓き證、世界の强國、國民の務、
第四〇週	復習 (二時間)		

材料 (六時間) 府。縣。郡。市。町。村。村會。帝國議會。

材料 (四時間) アメリカヲ去リテ廣キ海ヲ東ヘ渡ラバ大イナル陸地ニ達スベシ。コノ地ニハイギリスフランスドイツナド世界ニ名高キ國多シ。コレラノ諸國ハイヅレモ學問工業商業ナドモ盛ンニシテソノ都會ニハハナハダカナルモノハ多シ。

國語科(高等小學讀み方)教材配當表 後學期(十月十六日より三月末日まで)

數字は教授豫定時數なり

週 / 學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
三四	製紙 9	蒸氣機關の發明 6		大日本帝國憲法及ヒ皇室典範 8
三五	源爲朝 5	白虎隊 3		井上毅とぼあそなーど 3
三六	一谷の戰 11	生蕃 7	ないやがら瀑布 4	親族 6
三七		明治三十三年清國事變 7	地震 4	處世の歌 4
三八	アイヌ 8	高等女學校に入學するについて問合の手紙とその返事 5	忘れがたみ 10	政務の組織 12
三九	二人の旅人と熊 6	老人と驢馬との話 6	手紙 2	
四〇	笠置落 2	市町村 7	外交 5	
	練習 5	練習 5	練習 5	練習 5

國語科（高等小學讀み方）教材配當表　後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

週／學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
二二	秋の野山 4	大阪の役 6	動物と植物との關係 6	阿閉掃部と青木方齋 4
二三	種子の散布 8	日光 6	わが國の農業 7	近松門左衛門 4
二三	イチョー 4	害蟲 6	船津傳次平 4	俳句 4
二四	安倍仲麻呂 5	益蟲と保護鳥 6	人力車の發明 4	本居宣長 5
二五	助船 8	白い雀 9	なぽれおんのろしや遠征 6	瀧澤馬琴著作の苦心 7
二六	海の話 7	大岡忠相 7	太陽と月 7	勤學の歌 3
二七	浦島子 5	捕鯨 4	望遠鏡と顯微鏡 4	小書記勉三 10
二八	紫式部 4	遠洋漁業 2	ぴらみっと 2	吉田松陰 5
二九	稅所敦子 6	伊能忠敬 7	すたんりーりびんぐすとんのゆくへをさがす 11	洋學の發達 6
三〇	名古屋城 5	阿蘇山 6	ころんぶす 14	福澤諭吉 5
三一	わが陸軍 10	火山 5	熱帶植物 5	電氣の應用 9
三二	聯隊旗 2	水の變態 10	地震 4	大日本帝國憲法及ヒ皇室典範 8
三三	癈物利用 6	蒸氣機關の發明 6	ないやがら瀑布 4	井上毅とぼあそなーど 3
三四	製紙 9	白虎隊 3	忘れがたみ 10	親族 6
三五	源爲朝 5	生蕃 7	手紙 2	處世の歌 4
三六	一谷の戰 11	明治三十三年清國事變 7	外交 5	政務の組織 12
三七	アイヌ 8	高等女學校に入學するについて問合の手紙とその返事 5	練習 5	練習 5
三八	二人の旅人と熊 6	老人と驢馬との話 6		
三九	笠置落 2	市町村 7		
四〇	練習 5	練習 5		

國語科教授細目

高等小學科第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

週	教授事項及其注意	豫定時數	讀方	綴り方	書き方
		讀み方 百二十時 綴り方 四十時 書き方 四十時			
第二一週	第一課　秋の野山（四時間） 形質 一「景色を叙する美文、 二「黄金の波のうつ」の比喩語、 三「遊ぶべし」と「少かるべし」とのべしの意義、 四文中の「このころなり」のいくつも用ひたる叙述法、 五本課は朗讀に重きをおくべし、 實質 一「校外運動等を利用して野山を散歩せしめ、その實景を觀察せしめば最可なるべし、 二「秋の景色は兎角悲觀的に觀察するもの多し注意して本課を授くべし、 三「末節に於いて「よく勉めよく遊べ」の訓戒を與ふべし、		傳染病流行地にある友におくる、	材料（三時間） 殘れる暑さ去りて吹く風涼し。	
第二二週	第二課　種子の散布（八時間） 一「理科に關する口語文、 二「芽が出て根が出て」「一本の木一本の草」「動物と		同返事、 野邊の記事、		

か風とか水とか」の述べ方、
三「落ちると」と「落ちたなら」とを文語に改めしめその異同を知らしめよ、
四方方、四方、諸方、八方などの同意味に用ひらるゝこと、

實質
一理科と連絡せしむべし、
二種子は一一實物を示して理科的趣味を養ふべし、
三しぜんに行はるゝ種子の散布のなかなかにもしろいことを十分感ぜしむべし、

（四時間）

種子と果實、

第三週

第三課　イチヨー

形式
一理科に關する普通文、
二「アタカモ、クサバウキチ、サカサマニ、立テタルガゴトク」「アフギナリ」「アタカモ、乳房ノゴトク」ノ比喩法及說明詞、
三本課には副詞多ければその心して授くべし、

實質
一イチヨー樹の觀察を忘るべからず、
二銀杏及葉は兒童の喜ぶものなり、
三鶴ヶ岡八幡宮につきては歷史を連絡して歷史的事項の一端を附說すべし、

（五時間）

果物をおくる、

材料（二時間）
熟したる果實色美しく味甘し。

第四課　阿倍仲麻呂

形式
一普通の傳記文、
二皇帝は支那の帝王に對する尊稱なることを說き併せて天皇は日本のみ申し奉る敬稱なることを敎ふべし、
三留學生、使者等は現時の例により具體的に說明すべし、

實質
一歷史と連絡せしめてその時代を知らしむべし、
二日本と支那との古今文化の對比、
三古今留學生の有樣及海路の難易、
四仲麻呂の天の原の歌及支那人の吊詩中人口に膾炙するもの一つを示すべし、

（八時間）

留學生、

遠方へ行く人におくる、

材料（三時間）
水中に生ゐて……
……
生ゐることがある。

材料（二時間）
航海波風
不幸死弔
無事着喜

父母の慈愛、

便船を問合す、

第二四週

第二五週

第二六週

第五課　船

形式
一「濱吉行け行け早く行って」の反覆法、
二「まんじりとも、めざましい等の副詞、
三
四朗讀法に力を用ひ話し方を練習すべし、

實質
一この物語によりて同情心義俠心等を養ふべし、
二助けられし漁師の誰なるかを考へしめよ、
三海事思想を養ふべし、
四水泳の必要なることを附說せよ、

（七時間）

第六課　海ノ話

形式
一地文に關する口語文、
二アリアヒ、ホトンド、等の副詞、
三氷の動詞の名詞となりしもの、

材料（二時間）
海岸大波

第二七週	第七課 浦島子（五時間）	同返事、	小舟浮沈 助船用意
	實質 一海に關する智識を與へ海事思想を養ふべし、 二海水の鹽分をふくむ理、 三氷山のこと、 四遠洋漁業の利あることを附説せよ、 五我國の各種の水産物に富めること、 六陸上と海中とその遺利を比較せしめよ、 七共有の寶藏なる所以の理を辨ぜしめよ、	海中の寶、	材料（二時間） 精神一たび到らば 何事か成らざらん、
	形式 一假作的の昔噺の七五調韻文、 二千尋の海、五百重の波、の誇張法、 三いざいざ、泣く泣く、の反覆法、	うるはしき海岸、	
	實質 一浦島太郎の話を敎へて本課の内容を知らしめ博愛信義等の諸德を養ふべし、 二玉手箱のこと、 三誤解せしめて迷妄に陷らしむることなかれ、 四すべて昔噺童話等は兒童の了解し易きよう假作したるものにして之によりて複雜なる社會上各般の智識を得せしめんとするものなればその心して敎授すべし、		
第二八週	第八課 紫式部（四時間）	紅葉見にさそふ、	材料（二時間） 地球表面 陸地高低
	形式 一普通の傳記文、 二このころとこのごろ、 三敬語の練習、		

第二九週	第九課 稅所敦子（六時間）	同返事、	海底深淺
	實質 一歷史と連絡して式部のことを敎へ學と德とを修養するの必要を知らしめよ、 二男子ならざれば名をなすこと難かりし昔の樣を授けよ、 三源氏物語の和本のものを示し且つ文學上に及ぼしたる影響を説くべし、	人の務め、	材料（三時間） ムラサキシキブノ…… …… ……大イニ賞 シタマヒキ。
	形式 一前課と同じく普通の傳記文なり、 二「ことに文章和歌にすぐれたり」のことにの適用、 三「古の……にたるかな」の感歎文、 四かされがされの、やうやう、おもになどの副詞、 一前課と連絡して人の立身は學德二つながら備はるものにあることを知らしむべし、 二學問とは文章詠歌のみにあるかの如く誤解せしむるなかれ、		
	實質 三昔の天然痘流行の模樣を附説せよ、 四敦子の姑につかへて孝養をつくしし事に力を用ふべし、		
	第十課 名古屋城（五時間）		
	形式 一普通の記事文、 二「コレスナハチ」の適用法、 三「サイハイチフリナガラ」の適用法、		

第三〇週

四「甚だ美し」の意味を「ソノ美シサイハンカタナシ」と婉曲に述べるところを説明せよ、

第十一課　わが陸軍　（一〇時間）

實質

一天下の名城たる名古屋城を敎ふるにあり、
二大阪城と比較せしめよ、
三「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ尾張名古屋は城でもつ」の俗謠によりてその名城たるを知らしめよ、
四當時の築城術並に加藤清正が築城に長じたりしこと、

名古屋市、

第三一週

形式

一普通の記事文と手紙文、
二「いくらかづつ」の適用、
三それぞれ、かはるがはるの疊語の適用、
四候文體の一般形式、
起首結尾のこと、　普通の文語と異なること、

兵役、

實質

一陸軍の組織並に兵營内勤務の模樣を知らしめ兵役は國民の大義務たることを説くべし、
二陸軍組織の變遷を附説すべし、
三普通の師團と近衛師團、普通の旅團と混成旅團、
四一師團の組織については第四師團によりて例解すべし、
五大阪と東京とには軍樂隊あり、
六平時と戰時との兵員の多少を知らしむべし、
七軍人への勅諭並に徴兵令の大要、

入營を祝す、

材料（二時間）
皇后陛下
宮中女官
貴婦人

材料（二時間）
歩兵第一聯隊第二大隊第八中隊。

第三二週

第十二課　聯隊旗　（二時間）

形式

一七五調の韻文、
二「かけじけなくも……かしこくも……」の適用、
三對偶法に修辞したる所多し注意せしむべし、
四朗讀法に注意してよく暗誦せしむべし、

規律は貴ぶべし、

實質

一前課と連絡して陸軍に於ける聯隊の位置を考へしめ聯隊旗の性質を知らしめ軍事思想を養ふにあり、
二聯隊旗の大さ形狀等を模型によりて示せ、
三兩陸下の軍事に御心を用ひさせらるゝの深きこと、

幼年學校へ入學せる友におくる、

第三三週

第十三課　廢物利用　（六時間）

形式

一問答法を用ひたる記事文、
二疑問文に用ふる詞のか及やの説明、
三「けっして……なかれ」の禁止の呼應「かならず……べし」當然の呼應、

廢物利用の進歩、

實質

一本課は廢物利用のことを授けて訓練上に資するにあり、
二學校家庭に於て廢物の取扱心得を示すべし、
三世の文明に趣くにつれて廢物利用の法ますます行はるゝことを考へしめよ、

材料（三時間）
このごろ兵營内に……相成候。

第十四課　製紙　（九時間）

實質

一工業に關する記事文、
二マタハ　サレド　カク　或ハ　カクテなどの接續

西洋紙の製法を問合す、

第三四週

形式
詞多し兒童をして發見せしむべし、
三本課は日本紙と西洋紙とを交互相對偶して修述せりその心して教授すべし、
一日本紙と西洋紙との製法を知らしめて西洋紙の主として廢物利用にあることを考へしめ工業思想を養ふにあり、

實質
二西洋紙は晴雨にかかはらず製造に從事し得らるることを知らしめよ、
三市内にある重なる製紙所を紹介すべし、
四唐紙のことを附説すべし、
五一枚の紙たりとも麁末にすべからざることを訓ふべし、

第三五週

第十五課　源爲朝　（五時間）

形式
一武勇談の記事、
二「すなはちの種々なる意義の適用、
三「これまでなり」の意義竝に適用、

實質
一鎭西八郎源爲朝の武勇を敎へ勇武なる心を養ふべし、
二古より勇士は單に血氣の勇にはやるものをいふにあらずその精神の沈着なると武藝の達人なることを知らしめよ、
三保元の亂因について歷史と連絡して話すべし、
四父子兄弟互に敵味方となりて戰ふの不倫なることを話せ、
五爲朝の最後を附説せよ、

材料（三時間）
相談贊成
願許賴承
知忠告從

材料（二時間）
同返事、
紙の功用、

第三六週

第十六、十七課　一谷の戰　（一一時間）

形式
一戰爭の記事、
二第十七課の第一、二節の問答體に記述せることの説明、
三「一面に火のもゑたつよ」の形容語、
四進め進め、一族一門等の反覆法、

實質
一歷史と連絡して授くべし、
二宇治川の先陣、熊谷敦盛の組打、那須與市の扇の的等附説すべし、
三源頼朝の伊豆に起り平氏の西の方へ逃げた理由を考へしめよ、

材料（三時間）
平氏は三方から……
……おほぜいあった。
源義經の幼時、
源爲朝、

第三七週

第三八週

第十八課　アイヌ　（八時間）

形式
一風俗習慣を記ぜる口語文、
二初より七二頁の二行目まで男女交互に對偶法に叙述せり、
三ソレカラ、ソレダカラのカラの意義、

實質
一地理と連絡してアイヌ人種の風俗習慣を知らしめよ、
二アイヌの昔の有樣、
三アイヌ保護の理由、
四現今アイヌの居住區域、

材料（三時間）
住家食物
衣服風俗
言語文字
日本紙西洋紙製造場小賣店
女子（男子）のつとめ、

第三九週	第十九課　二人の旅人と熊　（六時間） 形式 一假作物語の口語文、 二假作物語はその事件と理由しみにして正しき場所人物年月等のなきは常なり注意すべし、 三末節の「危いときに……」の警句法、 實質 一物語によりて熊の常習及友人間の情を養ふにあり、 二猛獸類などの常習（熊は死んでゐる人はかまはんものだなど）を研究しおくの必要、 三倒れて居た友だちの答へは辭は勿論虚僞なりその正不正について判斷せしめよ、	地方の狀況を知らす、	
第四〇週	第二十課　笠置落　（二時間） 形式 一七五調の韻文、 二短歌をよみ入れあること、 三「さして行く笠置の……」の詞喩法、 四「いかにさん……」の倒置法、 實質 一歷史と連絡して教授し勤王心を起さしむ、 二藤房の後醍醐天皇に仕へし次第を語れ、 三金剛山下の忠士は兒童をして考へしめよ、	朋友の交り、	材料（三時間） 明治三十二年ニ……デキル……ヨーニナッタ。
	練習　（五時間）	楠木正成、	

國語科教授細目

高等小學科第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

分科／週	教授事項及其注意	豫定時數	綴り方	書き方
		讀み方 百二十時 綴り方 四十時 書き方 四十時		
第二一週	第一課　大阪の役　（六時間） 形式 一歷史上の事蹟を綴れる文語文、 二「これよりさき……」の意義用法、 三「れのづから」と「みづから」と、 四再建と再興、 五軍用金、攻守、媾和等の軍事用語、 實質 一歷史と連絡して大阪役の眞相を知らしむるにあり、 二大阪舊城の圖を示してその戰役の經過を話せ、 三當時の勇士眞田幸村木村重成溝田隼人等も附記すべし、	讀み方	私立中學校（私立高等女學校）に入學せしことを叔父（叔母）に知らす、	材料（三時間） 和戰攻守 進退集散 勝負安危
第二二週	第二課　日光　（六時間） 一名勝風景を叙する美文韻文、 二「自然の美人」の美」「峰高く谷深く」「夏のさかり」「秋の紅葉のころ」「善をつくし美をつくし」	讀み方	大阪城及びその附近の概況を知らす、	第四師團、

	形式	三全文中に日光の善と美を表出せる文字多し注意して授くべし。 四末段の韻文は平易なるものなればこれに模して他の事蹟を綴らしむべし、	等の對語法、
	實質	一地理歴史と連絡してその位置由來等を知らしむべし、 二「日光を見ないうちは結構をいふな」の偶言、 三美術上の智識を與へて美情を養成すべし、	

第二三週

第三課　害蟲　（六時間）

	形式	一農事に關する口語文、 二作物と植物との別　堀と掘との別、 三數十町歩の歩を添へていふこと、 四農事的談話の練習、	
	實質	一理科と連結せしめ害蟲内種類繁殖被害驅除豫防等を知らしむ、 二害蟲及被害植物は實地採集せしめよ、 三わが國の國産上に於ける稻の位置を知らしめざるべからず、 四昆蟲と人生との關係一班を授くべし、	箕面の紅葉、

第二四週

第四課　益蟲と保護鳥　（六時間）

	形式	一説明的の普通文、	害蟲驅除法を問合す、

	形式	二「……らろ」の他に然せらるゝ場合と崇敬語として用ひらるゝ場合との適用法、 三種族蕃殖等の動物用語、	同返事、
	實質	一害蟲と益蟲との關係、 二保護鳥の種類名稱及害蟲との關係、 三狩獵法及狩獵法施行規則を參照して國法の重んずべきことを知らしむべし、 四外國に於ける鳥獸保護の模樣を附説して博愛心公德心を養ふべし、	公益、 遊獵の心得、

第二五週

第五、六課　白い雀　（九時間）

	形式	一假作的物語を記述せる口語文、 二假作的物語に用ふるある處　ある日など、 三だん〳〵、いろ〳〵、ます〳〵所々方々等の疊語、 四「毎年一羽づゝ、しか」のしかをきり　より　と云ふこと あり、	
	實質	一修身的資料なればその心して授くべし、 二農夫は「人のよい男」によりて善人は世に棄てらるることなきこと、 三友人間の忠告諷刺指導等について語れ、 四人を導くには方便ありこの友人のも白い雀云々は虚僞にあらず方便としての假設なり誤解せしむる勿れ、 五早起の德を知らしめよ、 六握手は西洋の禮法なり、	友人を忠告す、

第二六週

第二七週

第七課　大岡忠相　（七時間）

形式
- 一口語の小傳記文、
- 二裁判上の語調語勢等を知らしむべし、
- 三裁判が上手で公平での叙述法、
- 四完全なる人を「神様のよーな方だ」の比喩語、

實質
- 一歴史と連絡して大岡忠相の人格を知らしめよ、
- 二親の子に於ける愛情を知らしめよ、
- 三國民たるものは裁判上の智識なかるべからざることを話すべし、
- 四大岡忠相の美談甚多しといへどもその一二を附説するに止むべし、

材料　二時間
- 爭訴調申
- 立裁判公
- 平實僞罪

第二八週

第八課　捕鯨　（四時間）

形式
- 一美文的記事文、
- 二「ほのぼの　あか〳〵」などの副詞、
- 三「美しさ勇ましさいはんかたなし」の形容詞法、
- 四「見ればの接頭語、
- 五舟と船と艘、腹と隻、

實質
- 一理科と連絡して捕鯨の準備方法等を知らしめ海事思想を養成すべし、
- 二鯨の形質用途産地を附説せよ、
- 三近時の最進歩したる捕鯨法を話せ、

朝は早く起きよ、

父子の愛情、

鯨の效用、

第九課　遠洋漁業　（三時間）

第二九週

第十課　伊能忠敬　（七時間）

形式
- 一普通の傳記文、
- 二時の人後の學者の記述法、
- 三全文中副詞多しその適用法を練習すべし、
- 四傳記文は記事の正確なるを要すること、

實質
- 一伊能忠敬の事蹟を知らしめて我國に及ぼせし功績を知らしめよ、
- 二忠敬の養家の再興に如何ばかり盡力せしかを述べよ、
- 三我國の遠洋漁業に適せることと現今の狀態とを附説すべし、
- 四「取れど拾へど」の疊音法、
- 五左の轉倒法（轉倒法は韻文に多し）
  - 1. 漕げや家なるわが舟を、
  - 2. 思へや獲物うち積みて……
- 三「怒れる波は高くとも吹さまく風はあらくとも」の對偶法、
- 二同一の事柄を左の二樣に表はせること、
  - 1. 海に無盡の富ありて、
  - 2. 種々の寶は海にあり、
- 一七五調韻文、

材料　（三時間）
- 三府四十三縣……福井

わが國の漁業、

ボート競漕に友をさそふ、

同返事、

三忠敬の地圖を英國人に示して如何ばかり我國の光輝となりしかを感ぜしめよ、
四忠敬の五十歳にもなりて已れより二十歳ばかりも若き東岡の門人となりて勉學せし熱心に感ぜしめよ、

第三〇週

第十一課　阿蘇山　（六時間）

形式
一地理に關する口語文、
二「チョード土手ヲ築イタヨー」「ゴロ〳〵トカミナリノヨー」「灰色ノ綿ノヨー」「マルデ火ノ柱ノヨー」等の比喩語、
三「サリトハハナハダシイ變遷デハナイカ」の反語、
四連山、面積、平方里、噴火口などの地理用語、
五トー〳〵ゴロ〳〵ドン〳〵パラ〳〵等の擬喩法、

實質
一地理と連絡して阿蘇山の變遷を說き地異天變の理由を了解せしむるなり、
二火山と溫泉との關係、
三舊火山口の湖となれる一二の例を擧げしめよ、
四噴出する物について理科的に說明せよ、

地圖の效用、

材料（三時間）
いぎりす人……
……
……
……感ぜり
といふ。

第三一週

第十二課　火山　（五時間）

形式
一地理に關する口語文、
二「白扇さかさまにかゝる東海の天」により修辭の巧妙なるを知らしめよ、
三送字への適用法、
四全文各節ともであるにて結んである、

湖、

第三二週

第十三課　水の變態　（十時間）

形式
一自然現象を叙述せる口語文及短歌、
二第一、二、三節は實驗と自然現象とを相配して記述せりその方法を考究せしむべし、
三末段の短歌はよく暗誦せしむべし、
四短歌一、二を作らしめて短歌の趣味を知らしめよ、

實質
一理科と連絡して水の三體變化を知らしめ自然現象の巧妙なる作用を感ぜしめよ、
二空氣と水蒸氣と別を考へしめよ、
三露霜などの成因については委しく話せ、
四左の問を試むべし、
1. 雨と露との別、
2. 霜と雪との別、
3. 海洋の鹹水にて河川の淡水なる理、

震災を見舞ふ、

同返事、

材料（二時間）
山川谷湖
港灣島岬
半島海峽

水の旅行、

雪景色、

第三三週

第十四課　蒸氣機關の發明　（六時間）

一小傳記文を基本とせる口語の歷史、
二「もしも……」「蒸氣力は……」……」の符號の適用、

材料（二時間）
水蒸氣噴出し火山灰飛び散る。

第三四週

形式
三「なみ〳〵の少年でない」「はなはだ少なくない」の曲言法、
四機關と機械、評判と批評、利用と應用、發見と發明、

實質
一理科と連絡して蒸氣機關發明の歴史を知らしめ發明心を起さしむるにあり、
二水蒸氣の功用を知らしめよ、
三わっとの機關の缺點を發見せしについては凡て物を觀察するには精密ならざるべからざることを感ぜしめよ、
四大阪地方にて蒸氣機關を應用せる概況を語らしむべし、

博物場縱覽にさそふ、
同返事、

第十五課　白虎隊　（三時間）

形式
一七五調の韻文、
二すべて韻文には省略を用ひたる點少なからず宜しく指示すべし、
三彈丸を矢玉といふこと（矢なくとも）
枕ならべて刃に伏す（枕なくとも）

實質
一歴史と連絡して會津の戰爭を說き武勇心を皷舞せよ、
二幕府時代の主君と臣子との關係を知らしめよ、
三白虎隊自刃の圖を示してその實狀を知らしめよ、

大阪の工業、

第十六課　生蕃　（七時間）

材料（三時間）
水ハ水蒸氣ニナッタリ……
……カサヲ增スモノデアル。

勇士、

第三五週

形式
一風俗習慣等を記せる普通文、
二全文中に新術語多し具體的に解釋すべし、
三第六節の「形サマザマニシテ……ノ如キモノアリ……ノ如キモノアリ……ノ如キモノアリマタ……ノ如キモノアリ」の記述法、
四「男子ハ出デテ…女子ハ內ニアリテ…」の對偶法

實質
一地理と連絡して生蕃の事情を知らしむにあり、
二本課記述の事項については「臺灣の生蕃について」の誤謬」と題して教材研究第二卷第七號に登載あり參照すべし、
三生蕃と土匪とを混同せしむるなかれ、
四わが琉球の漂民を殘殺したるはこの生蕃なることを附說すべし、

臺灣の土匪征伐、

材料（二時間）
機械構造
缺點發見
完全利用

第三六週

第十七課　明治三十三年清國事變　（七時間）

形式
一職役に關する記事文、
二「破竹の勢を以て」「勇氣百倍す」などの誇張法、
三守備、共同防禦、喰兵、傳令使など軍事用語、
四勇壯なる語調を以て讀ましめよ、

實質
一歴史と連絡して教授し義勇心を養ふべし、
二北淸の地圖によりて太沽天津北京等の位置を示せ、
三各國聯合軍は何々國の聯合なるかを知らしめよ、
四當附屬小學校卒業生石橋繁氏（商人）は天津にありて防戰し同兒島正一郎氏（外交官補）は義勇軍に加

遠地の商況をたづぬる手紙、

材料（二時間）
山地沿海
平地部落
所々散在

第三七週

はりて戰死せしことを附說すべし、
五この事變のわが國に及ぼしたる影響を考へしめよ、

第十八課　高等女學校に入學するについて　（五時間）

問合の手紙とその返事

形式
一同單問に贈答する口語の手紙文、
二手紙文の一般形式順序等を授くべし、
三……から　ので　ゆゑ　さかいに　によって　などを列擧してその正不正を敎へよ、
四讀み方を十分練習して挨拶ぶりを知らしむべし、

實質
一朋友の間に於ける禮儀交際を知らしむべし、
二高等女學校へ入學の手續（本科技藝科とも）を委細話すべし、
三入學試驗に對する一時的の準備勉强よりも平素の修養の必要なることを感ぜしめよ、

義勇軍、
友人の兄の戰死せしを吊ふ手紙、

公使館員
居留民義
勇隊組織

第十九課　老人と驢馬との話　（六時間）

形式
一假作的物語の口語の記事文、
二ひそ〳〵　ばた〳〵　すご〳〵などの聲喩法、
三文中の反語及轉倒法を發見せしめよ、
四「話しつ笑ひつして來る」の二つの性質、
五讀み方に力を用ふべし、

實質
一假作物語によりて己の志を確立すべきを諷せるなり、

學生の心得、
復習會を催す、

材料（三時間）
入學願全部。

第三九週

第二十課　市　町　村　（七時間）

實質
一物語物中に一群の女、老人、子供を連れた一群の女、教師等各種の人物あればその言によりて世態人情の一班を知らしむべし、
二動物の利用と虐待とを混同せしむるなかれ、
三動物虐待防止會のことを附說すべし、

形式
一政治上の解說文、
二政治上の用語多しその解說は最適切にしてしかも兒童に了解し易からしむべし、
三臣民と住民と公民との別、推薦と選擧との別等を具體的に例解せよ、

實質
一自治行政の一班を知らしめて國民としての心得を敎ふにあり、
二國の行政と自治の行政とを明に區分すべし、
三市は大阪市、堺市、町は平野鄕町、村は附近の村についてその自治制を說明すべし、
四政黨のことを附說すべし、

依賴心をもつなかれ、
自治制度、

材料（三時間）
滋賀京都……
……北海道
臺灣。

第四〇週

練　習　（五時間）

議員當選を祝ふ、

國語科教授細目

高等小學科第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

週	教授事項及其注意	豫定時數	綴り方	書き方
第二一週	**第一課　動物と植物との關係**（六時間） 一理科に關する説明的の口語文、 二「昆蟲は……植物は……」「鳥類は……植物は……」の對偶法、 三「人の見ることの……關係のあることがある」の表出法、 四蕃殖と繁殖、同化作用と呼吸作用、生存と生活、などの意義その他動植花物用語、 一理科と連結して動物と植物とその生存上如何なる靈妙の關係作用あるかを知らしむ、 二右理法の吾人に及ぼす功益の大なるを話さしめよ、 三動物の炭酸がすを吐き出す實驗、 四植物の同化作用の實驗、 五植物多き公園庭園等の必要をさとらしむべし、	讀み方百時 綴り方四十時 書き方四十時	中學校（高等女學校）に入學せる友におくる、 公園の散歩、	材料（七時間） 生物呼吸同化供給消費關係密接
第二二週				
第二三週	**第二課　わが國の農業**（七時間） 一農事に關する記事文、 二じつにの適用法、 三しかのみならず　うべならずやの適用法、 四農事に關する用語多し適當に解せしめよ、 一我國の去過現在に於ける農業を述べて泰西諸國と比較し以て農業の必要を知らしむるにあり、 二農業は工業商業と相ならびて國家の大本たり宜しく農は豈業なりとの習慣を打破すべし、 三わが國と人口面積の殆んど相等しき英國の農産は我國の五倍佛國は八倍獨國は七倍ありこれ學理應用の效にあること多し附説すべし、		炭酸瓦斯、 商業、 農談會開會の通知、	材料（三時間） 氣候溫和地 味肥沃穀物 收穫多量 農業は…… …… ……長壽を保つことを得べし。
第二四週	**第三課　船津傳次平**（四時間） 一傳記文、 二手加減と目分量、 三先導者と指導者、 四親切を深切とも書くこと、 一傳次平の農事に於ける技倆功績を知らしむるにあり、 二傳次平の修養時代に力を用ふべし、 三傳次平の年齡天保三年に生れ明治十年に四十六歳ならば明治三十一年には六十七歳となるべきなり注意すべし、			

四駒場の現況を附說すべし、
五藍綬褒章について十分知らしめよ、

第四課　人力車の發明　（四時間）

藍綬褒章、

形式
一歷史的の記事文、
二前課と比較してその記述法の異同を知らしめよ、
三はじめてとはじめと、
四人力車を俥とかくこと略してくるまといふこと、

實質
一人力車發明の由來及改良のことを知らしむ、
二蓬蓬の構造はまづ知らしめざるべからず、
三馬車と人力車と相似たる點に注意せしめよ、
四東洋の大都會開港場（人力車を用ひ居る）の名稱を教ふべし、

材料（三時間）
栽培實驗學
理精通農事
講話指導

第二五週

第五課　なぽれおんのろしや遠征　（六時間）

專賣特許出願の手續を問ふ、
同返事、
ろしやの國、

形式
一歷史的の記事文、
二「意外の敗亡とは何そろしや遠征の不結果これなり」の問答的記述法、
三「崩る、物音、はじくる響、人の叫びわめく聲と合して……」のテニハを略したること、
四「凍死餓死戰死……」の表出法、

實質
一ろしや遠征を中心として破翁の一生を知らしむるにあり、
二幼時を附說すべし、
三この戰爭と日露戰爭と比較して話すべし、

材料（二時間）
職工雇入製

第二六週

四當時のフランスを了解せしめよ、

第六課　太陽と月　（七時間）

出征軍人におくる、
遠足會の通知、
春夏秋冬、
月蝕の理を問はれ

形式
一天文に關する記事文、
二「今一時間三十マイル……」によりてすべて想像しがたきほどの事は近易なる例を引くの必要を知らしむべし、
三クラブペクモアラズの立語を口語に改めしむ、
四全文中に對偶法に表出せる個所多し注意せしめよ、

實質
一吾人が生息せる地球に最も關係ある天體即ち太陽と月と地球との關係を知らしむ、
二三球儀によりて說明すべし、
三日月及これ等關係によりて生ずる日蝕月蝕等については迷信多しよろしく理解せしむべし、
四南北兩半球は常に四季の變化相反せることを推究せしめよ、

造開店營業
販賣輸出

材料（三時間）
讀本一部……
……
……オルガン一ダイ

第二七週

第七課　望遠鏡と顯微鏡　（四時間）

形式
一理科に關する口語の記事文、
二「遠い所にある物體を近い所に見る……」「ごく小さいものを大きく見る……」の表出法、

實質
一主として望遠鏡顯微鏡の功用を知らしむべし、
二微顯鏡の醫學上に及ぼせる功用、
三兩眼鏡蟲眼鏡を附說すべし、
四望遠鏡の發明の由來についてやゝ委しく話しむく

第二八週

べし、
五發明心を養ふべし、

第八課　ぴらみっど　（二時間）

形式
一七五調の韻文、
二面影、をちこち、石柩などの解釋、
三韻文にはテニハを略したる所多し發見せしめよ、

實質
一ぴらみっどの位置形狀內部等を知らしめねじぷと太古の文明一班をうかゞはしむるにあり、
二地理科と連絡して授けよ、
三みーらについては委しく話せ、
四ぴらみっどを三尖塔金字塔など書くはその形狀によれること、
五萬里の長城を附說して世界の二大工事なることを知しむべし、

しに答ふ、

材料（二時間）
士壯壹刀切
別力加助弓
引弱矢短

顯微鏡を借りにつかはす、

秋のけしき、

萬里の長城、

第九、十課　すたんりー、りびんぐすとんのゆくへをさがす　（一一時間）

形式
一地理探檢の記事、
二「いはんや……か、りたるをや」の反語の呼應法、
三「あー汽車はなきか馬はあらざるか飛んでいたらん術もがな」設疑法と願望文、
四「……こそ……なれ」の係結、
五ところどころ美的に表出せる所あり注意せしむべし、

材料（四時間）
ぴらみっど

第三〇週

第三一週

し、

實質
一地理探檢の困難を知らしめ政爲忍耐の心を養ふにあり、
二地理と連絡してあふりか內地の氣候生物土人等を說明すべし、
三二人探檢の功績、
四二人の探檢事業を福島少將の單騎旅行と比較すべし、

旅行先にある父（母）におくる、

ねじぷと大古の……
……みーらとなりて殘るとぞ。

第十一課　熱帶植物　（五時間）

形式
一理科に關する記事文、
二椰子樹、蕉、バナ等殆んど獨立的の一文なればその心して授くべし、
三文中副詞多しよくその適用法を授くべし、

實質
一理科地理等と連絡して熱帶植物の特質を知らしむ、
二雨量と深林との關係、
三我國にある熱帶植物の種類名稱、
四實物もしくは繪畫等によりて說明し熱帶植物の効用を知らしむべし、

事物の搜索を賴む、

材料（三時間）
探檢旅行毒
中疾病泥地
盜賊冒險

第三二週

第三三週

第十二、十三、十四課　ころんぶす　（一四時間）

形式
一口語の傳記文、
二兒童をして話さしめ話し方練習すべし、
三「論したりむごしたり勵したりして……」の表出法、

土產物をおくる、

材料（三時間）

第三四週

實質
一地理歷史と連絡してあめりか大陸發見の由來顚末を知しむるにあり、
二ころんぶすの熱心と忍耐とを感ぜしめて海事思想を養ふべし、
三ころんぶすの航海を企てし目的については誤解せしめぬよ―説明すべし、
四ころんぶす世界大博覽會を附説すべし、
五この課に於いて地理研究の必要を知らしめよ、

倍部限形須
順訓理野豫
徒起情靜

第三五週

第十五課　ないやがら瀑布

形式
一勝地の記事文、
二第四節は一般の瀑布に適用さるべし、
三そも〳〵の適用、
四末節の「少しも減じたるがごとく見にすといふ」の表出法、

材料（三時間）
コロンブスハ……
……名譽ヲ表彰サレタ。

實質
一ふぃーと、馬力などは正確に知らしめよ、
二地理と連絡してその位置形狀及利用を教授すべし、
三觀瀑についてはわが國と比較して話すべし、
四瀑の水の利用については京都の疏水の利用などと比較して話し學理應用の進歩の一班を知らしむべし、
五世界一の瀑布はりびんくすとんの發見したる亞非利加のざんべし河の水の落ちてなるヴィクトリア瀑布なりと附説すべし、

（四時間）

わが國にある植物、
出帆時刻を問合す、
同禮狀、
同返事、

第十六課　地震

（四時間）

第三六週

形式
一地文に關する記事文、
二「上下の運動スナハチ上下動ト横ノ運動スナハチ水平動」の表出法、
三沿海と沿岸、震動と振動、移動と變動、

實質
一主として我國の地震について知らしむるにあり、
二地震のために生ぜし土地の變動について附説せよ、
三地震に關する迷信的俗説多し宜しく打破すべし、
四海嘯は海底に地震の起りたるものなることを知らしめよ、

琵琶湖水の利用、
瀑布、
同返事、

第三七週

第十七、十八課　忘れがたみ

（一〇時間）

形式
一情的事實を情的に表出せる美文、
二「助けてくれ助けてくれ」「起せども〳〵いっかないっかな起くればこそ」などの反覆法、
三百萬の人家、千萬の瓦、萬死をのがる、などの誇張法、
四末數節は或は推量想像して或は假定して相呼應して大に餘情あり委しく説明すべし、
五全文修辭上注意すべき點少からず注意せしめよ、

實質
一全課と連絡して安政二年の江戸大震の慘狀を知らし親子の愛情を養ふべし、
二乳母の薄情については誤解せしむるなかれ、
三夜の亥の刻は今の午後十時なることを教へ且つ昔の時間の唱へよ―を附説すべし、
四主人公外山正一の略傳を話すべし、

丁稚（下女）を世話す、
母の愛、

材料（三時間）
富當貴責老
孝考借惜貸
賃場湯陽

材料（二時間）
地震區域廣
大人畜死傷
家屋破損

第十九課　手紙　（二時間）

形式
- 一、盲啞教育に問はれし返事なり、
- 二、候文の候の次にきたる接尾語はなるたけ省くこと、
- 三、節を分ちて書くこと、
- 四、文中繪を加へてその思想を發表すること、
- 五、前略敬具等の意義、

實質
- 一、教授者はまづ盲啞學校を參觀するか、どうかして委しくその有樣を調査して盲啞教育の實際を知らしむべし、
- 二、盲啞はいかに不自由なるかを想像せしめ同情心を起さしむべし、
- 三、教育をうけし盲啞の職業を附說せよ、

義捐金募集廣告或は勸誘文、

火災見舞、

盲啞學校、

われ〳〵の幸福、

材料　（三時間）

見る見る百萬の人……たとふるにものあらざりけり。

第二十課　外交　（五時間）

第三九週

形式
- 一、外交に關する口語文、
- 二、交通と交際、通商と貿易、居留と駐劄、
- 三、末節の「條約國ニハ……少クナイ……多イ」の記述法、

實質
- 一、我國の外交の歷史及現今の有樣を知らしめ且つ外人に對する心得を訓ふべし、
- 二、地理と連絡して本邦在留外國人及外國在留本邦人の統計表を示すべし、
- 三、外交と商工業等との關係を知らしめよ、
- 四、外國人の事業を知り圓滿なる交際をなさんには外國殊に英語を研究すべきことを附說すべし、

練習　（五時間）

第四〇週

外人に對する心得、

材料　（二時間）

さて盲啞生の教育は……かくのごとくに御座候。

國語科教授細目

高等小學科第四學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）

週	教授事項及其注意	豫定時數（讀み方 百時／綴り方 四十時／書き方 四十時）	讀み方	綴り方	書き方
第一週	**第一課　阿閉掃部と青木方齋**（四時間） 形式 一武勇談の記事、 二問答法をまじへたる記述なることを話すべし、 三普通の文章とその言詞の異なる所に注意せしめよ、 四それがしといふ代名詞のこと、 實質 一二人の武勇と奇遇を知らしめ古武士の風を想慕せしむるにあり、 二鎧着の式のこと、 三江州賤嶽の合戰の大略を附說せよ、 四當時の武士を了解せしむべし、			新聞社へ取消または正誤を頼む、 新聞紙の切抜をおくる、 赤十字社（愛國婦人會）	**材料**（三時間） 帝國議會…… ……聯隊區司令部。
第二週	**第二課　近松門左衞門**（四時間） 形式 一口語の記傳文、 二「文學は太平の時に榮ゆるのがつれである」を一種の警句と見て可なり、 三「あしかけ三年、十七箇月が間」は一種の反語法、 四俳諧小說淨瑠璃脚本等例解すべし、 實質 一歷史と連絡して巢林子を紹介し元祿時代に於ける平民文學の一班を知らしむ、 二巢林子のわが文學上に及ぼせる影響、 三國姓爺合戰の內容大略、				
第三週	**第三課　俳句**（四時間） 形式 一韻文の評釋文、 二和歌（短歌）と俳句の比較、 三評釋文も美文に近し普通の口語文に改めしむる練習すべし、 四解し易き俳句一二の評釋なさしむべし、 實質 一俳句の由來を話し文學的價値を知らしめよ、 二各作者の時代を話すべし、 三俳句を川柳と混同せしむるなかれ、			德川時代の文學、 添削をたのむ、	**材料**（三時間） 困難にも屈せず…… ……勇氣ある行なり。
第四週	**第四課　本居宣長**（五時間） 形式 一普通の傳記文、 二「天下ノ泰平……」は一種の警句、 三「國體ヲ發揮スルニハ古典ニ通ゼザルベカラズ古典ニ通センニハ古語ニ明カナラザルベカラズ」は漸層法、 四敷島の大和心……の歌は能く暗誦せしむべし、			左の和歌の評釋文を課す しきしまの 大和心を 人問はゞ 朝日に匂ふ 山ざくら花	

第二四週

第五課　瀧澤馬琴著作の苦心　（七時間）

實質

一本居宣長の功績を述べ德川時代の國學の一班を知らしむにあり、
二國學の勃興と尊王論の關係を知らしむべし、
三古事記の內容大略、
四玉造の圓珠庵にありし僧契沖のことを話せ、

形式

一人の事業を叙する記事文、
二「弧弓も……」の警句、
三八犬傳卷末の原文と比較して約說文の事を敎へよ、
四さながらの適用法、

材料

千葉水戶……僧契沖、
……安平……讀書の心得、
臺南。

第二五週

一主として八犬傳著作の顚末を叙して馬琴の苦心を知らしめ百折不撓の精神を養ふにあり、
二八犬傳の直接間接わが文化に及ぼしたる影響、
三利のために學ぶの非なることを知らしめよ、
四馬琴の晚年の苦心については一層の同情心を起さしむべし、
五八犬傳のほか有名なる著書數種を示せ、

第二六週

第六課　勸學の歌　（三時間）

實質

一七五調の韻文、
二全文中警句あり對偶法あり比喩法あり反覆法あり適宜敎ふべし、
三朱文公の原詩を示して比較說明すべし、

形式

研究會へ加入を申込む。

第二七週

第七、八課　小書記勉　（一〇時間）

實質

一句々訓戒的なれば修身と連絡して撓まず屈せず學ぶべきを知らしむ、
二朱文公の人と爲り一端を話すべし、
三蜘蛛蜂について理科と連絡し注意して授くべし、
四「年わかしとて……」「塵ひち積りて……」の二警句に主力を用ふべし、

形式

一假作的の口語の記事文、
二讀方に於て話し方の練習せよ、
三「符號を附したる所に特に注意して家庭に於て用ふる言葉づかひを知らしむべし、

材料

塵積りて山となる、
普請中休業の廣告、

第二八週

一勉三の心がけ父のなさけによりて子の父母に對する心得及父母の慈愛を知らしめよ、
二勉三の行爲については大に同情心を起さしめ且つ全文情的に敎授すべし、
三富有なる家庭にて育てられし兒童は多く艱苦に忍ぶ能はず十分訓戒するを要す、
四各兒童の日々の仕事を語らしめよ、

第九課　吉田松陰　（五時間）

形式

一小傳と手紙文、
二小傳中の形勢護送志士等の意義、
三手紙文によりて當時の手紙文の書き樣を示すべし、
四返書に發信の日附を書く必要、

材料

牛牧馬騎羊
養犬獸獵鳥
鶴蟲蠶蜂

材料

春の初花……業務の擴張を披露す。
……なにかおそれんおそるまじ。
……忍耐と成業。

第二九週

第三〇週

第十課　洋學ノ發達

（六時間）

形式
- 一文學に關する歷史の記事文、
- 二通辯翻譯等の解、
- 三第七節の或ハ　又ハの使用法、

實質
- 一歷史と連絡してわが洋學發達の由來を知らしむにあり、
- 二蘭學のみにて英學者などのなかりし理由を考へしめよ、
- 三當時蘭學者の苦學を話すべし、
- 四蘭學の我國の文化に及ぼしたる影響を考へしめ蘭學者の功績を思はしむべし、
- 五當時の浪華の文學を知らしめよ、

材料（二時間）
- 歷履書の雛形全部、

第十一課　福澤諭吉

（五時間）

形式
- 一文學に關する歷史の記事文、
- 二通辯翻譯等の解、
- 三「一行に加はり、行を共にし、同行し」など同一の事柄を種々に記述すること、

實質
- 一福澤諭吉の生涯を紹介して修學心獨立心を養成せよ、
- 二歷史と連絡して彰義隊のことを附說せよ、
- 三諭吉は當市堂島高等女學校のある所にて生れしことを話すべし、
- 四諭吉の門下生中有名なる人を附說せよ、
- 五新聞雜誌著書等の文明に關係あることを知らしむべし、

材料（三時間）
- 書籍店……
- ……人足
- 工女。

衞生上の注意を與ふ、
愛國、
師の恩、
英語研究の必要、

第三一週

第三二週

第三三週

第十二、十三課　電氣の利用

（九時間）

形式
- 一理科に關する記事文、
- 二電磁氣に關する用語、
- 三瞬時の時に幾萬里の外に達すの誇張法、
- 四ダマナモ、アークライト、等の殆んど邦語に化したる外國語を授くべし、

實質
- 一現今利用せらるゝ電氣を授け且つ利用のます〳〵廣まりつゝあることを知らしむ、
- 二出來得るかぎり理科と連絡して實驗すべし、
- 三當地にて如何に利用せられつゝあるかを知らしめよ、
- 四日露戰爭に於て地雷水雷及無線電信の如何に利用されしかを附說すべし、

材料（五時間）
- 節制沈默秩序決心儉約勤勉誠實正義中和清潔沈着貞操謙遜

外國に行く人をおくる、
新聞紙の功用、
郵便と電信、
無線電信の利用、

第十四課　大日本帝國憲法及皇室典範　（八時間）

第三四週

形式
- 一法文に關する記事文及法文、
- 二法律に關する用語の解釋、
- 三第一節の文章の構造を考へしめよ、

實質
- 四法文の森嚴なることに注意せしむべし、
- 一教育に關する勅語中の國體を重んじ云々と連絡し誠忠の念と遵法の心を養ふべし、
- 二憲法發布式當日の光景を話して外國のと比較し立憲政治と專制政治との大意を附說せよ、
- 三兵役納稅の二大義務を特に委細に解釋せよ、
- 四憲法及皇室典範の內容大略、

第十五課　井上毅とぼあそなーど　（三時間）

第三五週

形式
- 一普通の記事文にしてうつして日誌の模範文とするに適す、
- 二「病やあろ」「およそ職ある人々……やあるべき」の反語の呼應法、
- 三末節の餞のことばは特に注意せしめてその記述法を研究せしめよ、

實質
- 一井上毅のぼあそなーどに對する同情心、
- 二ぼあそなーどの忠勤と我國に盡したる功績、
- 三ぼあそなーどはわが帝國大學の名譽教授なることを附說すべし、
- 四井上毅の性行一二を紹介すべし、

電話電燈加入申込書、

貨物の運輸を賴む、

國法に遵ふべし、

舊友におくる。

材料（四時間）
- 家族祖父……
- ……
- ……
- ……
- ……奇留轉居

第十六課　親族　（六時間）

第三六週

形式
- 一法律の解說文、
- 二民法の正文と對比して法律文の解說なることを知らしめよ、
- 三法律用語多し兒童をして適當なる解釋を發見せしめんことを要す、

實質
- 一民法中の親族篇の大要に通ぜしめ法律思想を養成するにあり、
- 二民法上の親族は圖解すべし、
- 三兒童現在は親族系に於て如何なる位置にあるか及その權利義務を悟了せしめよ、
- 四法律を知らずして法律を犯せしものも罪人たるを免れざるの意を知らしむべし、

同返事、

外國貿易上の缺點、

第十七課　處世の歌　（四時間）

第三七週

形式
- 一七五調の韻文、
- 二第一節の對偶法、
- 三韻文固有の修飾法について敎ふべし、

實質
- 一字々句々訓誡的にして終生の座右の銘とするに足る深くその意を解せしめて諸德を養ふべし、
- 二煙草の害を附說し禁煙令の主旨を知らしめよ、
- 三當地の人士一般に獨立攝生規律等の諸德に乏しきを覺ゆ特に力を用ふべし、

取引先の信用を問合す、

同返事、

材料（三時間）
憲法の第二章第二十三條まで。

第三八週	第十八、十九、二十課　政務の組織（一二時間） 形式 一法政に關する口語文、 二法政上の用語の解釋に意を用ひよ、 三話し方の練習に大に力を用ふべし、 實質 一國政に關する智識を與へ國民の心得を知らしむるにあり、 二歴史と連絡して古來政治上の變遷を附說すべし、 三國の行政と自治の行政と區分を明かにしよく自治の精神を知らしむべし、 四官吏に對する心得を說け、 五辯護士執達吏の職掌、 六政黨のことを附說すべし、	われらの望み、 卒業式の答辭、 帝國議會、	材料（三時間） 同前 第二十七條まで。
第三九週	練習（五時間）	議員の責任、	材料（三時間） 同前 第三十二條まで。
第四〇週			

算術科教授細目

算術に用ふる用語、諸形式の補遺

比例

單比例

一、某家は家族三人ありて毎月白米一斗五升を食す若し五人あらば毎月幾何食するならんか　但し各人同じ分量を食するものと假定す

イ.　3人 : 5人 = 15升 : x

ロ.　3 : 5 = 15升 : x

ハ.　$x = \frac{5 \times 15}{3}$ 升 = 25升　　答二斗五升

慣熟の後は「イ」の式は實際書き下さしめずただ心の内に考へしむるのみにし直ちに「ロ」の式を書かしむべし

一、某家に五人の家族三十日間食し得るだけの食料あり若し六人ならば何日間食し得るか　但し各人同じ分量を食するものと假定す

イ.　6人 : 5人 = 30日 : x

ロ.　6 : 5 = 30日 : x

い、 $x = \frac{5 \times 90}{6}$ 日 $= 25$ 日　　答二十五日

慣熟後「イ」を書かしめざることは前に同じ

複比例

單比例より類推すれば明なかるが故にこゝには省せず

比例配分

一、亞鉛三十「ニッケル」二十銅五十五の割合によりなれる洋銀八百四十匁の内には亞鉛「ニッケル」銅各々幾何含まれゐるか

30 + 20 + 55 = 105

亞鉛　105:30 = 840匁:x　　$x = 840匁 \times \frac{30}{105} = 240匁$

ニッケル　105:20 = 840匁:x　　$x = 840匁 \times \frac{20}{105} = 160匁$

銅　105:55 = 840匁:x　　$x = 840匁 \times \frac{20}{105} = 440匁$

答　亞鉛　二百四十匁
　　ニッケル　百六十匁
　　銅　四百四十匁

運算の場合第一項と第二項は勞頭第一に約すべし

歩合算

一、五百圓の一割五分はいくらか

500 × 0.15 = 75　　答七拾五圓

一、總員八百名の歩兵某大隊は數時間に亘る激戰後兵員の一割二分を失へり戰鬪後に於ける人數幾何なるか

1 − 0.12 = 0.88　　800 × 0.88 = 704　　答七百〇四名

一、某燐寸製造會社は若干の資本金を以て營業をなし昨年間に利益金八千六百七拾圓を得たり而して此利益は資本金の一割七分に當るといふ資本金幾何なりしか

8670 ÷ 0.17 = 51000　　答五萬壹千圓

一、資本金五萬壹千圓を運轉せる某燐寸會社は昨年間に八千六百七拾圓の利益を得たりといふ此利益金は資本金の幾割なるか

8670 ÷ 51000 = 0.17　　答一割七分

一、或る人村税と其百分の三半の附加税とに百四拾九圓四錢を納めたりといふ附加税高幾何なるか

$1 + \frac{3.5}{100} = 1.035$

14904 ÷ 1.035 = 14400

$14400 \times \frac{3.5}{100} = 504$　　答五圓四錢

一、或人書籍を定價の二割引に買うて四拾八錢を拂へりといふ此書籍の定價幾何なるか

$1-0.2=0.8$

$48\div0.8=60$　　答六拾錢

利息算

一、年利九分の割にて五ヶ月間八百貳拾四圓より生ずる利金幾何なるか

$824\times0.09\times\frac{5}{12}=30.9$　　答參拾圓九拾錢

一、年利九分の割にて五ヶ月間八百貳拾四圓より生ずる元利合計幾何なるか

$824\times(1+0.09\times\frac{5}{12})=854.9$　　答八百五拾四圓九拾錢

一、年利七分にて三ヶ年間に貳百六拾壹圓四拾五錢の利息を生みし元金幾何なるか

$261.45\div(0.07\times3)=1245$　　答壹千貳百四拾五圓

一、金壹千貳百四拾五圓を年利七分にて貸し利息金貳百六拾壹圓四拾五錢を生むには幾年を要するか

$261.45\div(1245\times0.07)=3$　　答三ヶ年

一、金壹千貳百四拾五圓を三ヶ年間貸し利息金貳百六拾壹圓四拾五錢を得るには年利率幾何とすべきか

$261.45\div(1245\times3)=0.07$　　答七分

複利法

一、或人金六百圓を年利五分利息滿一ヶ年毎に元金へ繰込との契約にて貸附けたり此人三ヶ年の後に元利共受取らば其金高幾何なるか

$600\times(1.05)^3$

$(1.05)^3=1.157625$(兼て兒童に配布し置きたる表により)

$600\times(1.05)^3=600\times1.157625=694.575$　　答六百九拾四圓五拾七錢五厘

一、或人金六百圓を年利五分の割合にて某銀行に預けたり二ヶ年の後に至らば元利合計幾何となるか　但し利息は半年毎に元金へ繰込む壹圓未滿の端數に對しては利子を附せず

最初の元金	600.000
第一期間の利息	$600\times0.025=$ 15.000
第二期の元金	615.000
第二期間の利息	$615\times0.025=$ 15.375
第三期の元金	630.375
第三期間の利息	$630\times0.025=$ 15.750
第四期の元金	646.125
第四期間の利息	$646\times0.025=$ 16.150
第二年の終に於ける總高	662.275

答六百六拾貳圓貳拾七錢五厘

以上掲げたる外の諸計算は類推し易ければこゝにはかゝず

算術科教授細目

尋常小學科第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　百時間

週題目	時間	要項	注意
第二週	五	一十五までの數の總練習 二一＝＝＋の符號	
第二週	五	一二十までの呼び方數へ方 二二十六までの加減乘除 三16の書き方	
第三週	五	一十七までの加減乘除 二17の書き方	
第三週	五	一二十までの呼び方數へ方 二二十六までの加減乘除 三16の書き方	
第四週	五	一十八までの加減乘除 二18の書き方	
第五週	五	一十九までの加減乘除 二19の書き方	
第六週	五	一二十までの加減乘除 二20の書き方	
第七週	五	一二十までの加減乘除	
第三週	五	一二十までの數の總練習 二一＝＝＋の符號	
第三週	五	一二十までの加減乘除	
第三週	五	同前	
第三週	五	同前	
第三週	五	同前	
第三週	五	同前	
第三週	五	同前	
第三週	五	同前	

算術科教授細目

尋常小學科第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　百時間

週	題目	時間	要項	注意
第二一週	五十までの加減乘除	五	五十までの加減乘除總練習	
第二二週	百までの加減乘除	五	一百までの呼び方數へ方書き方 二壹錢より壹圓までの數へ方 三一位の零なる二位の數へ單位の數を加ふること 四二位の數より單位の數を減じ其の結果一位の零なる二位の數となるもの	
第二三週		五	一單位の取扱にてなし得る二位の數と單位の數との加減 二單位の和十を超ゆる二位の數と單位の數との加減 三二位の數と二位の數との加減	
第三一週	百までの加減乘除	五	百までの加減乘除	
第三二週		五	一百までの加減乘除 二升斗石の計算	
第三三週		五	百までの加減乘除	

週	題目	時間	要項	注意
第二八週		五	同前	
第二九週		五	同前	
第三〇週		五	一同前 二一寸より二尺に至る數へ方計算	
第三八週		五	同前	
第三九週		五	同前	
第四〇週		五	同前	

第二四週	第二五週	第二六週	第二七週
五	五	五	五
一同前 二分寸尺の計算	一百までの加減乘除 二六の段までの乘算九々 三六尺を一間と稱すること及間の計算	一百までの加減乘除 二八の段までの乘算九々 三七日を一週と稱すること	一百までの加減乘除 二九の段までの乘算九々

第三四週	第三五週	第三六週	第三七週
五	五	五	五
一百までの加減乘除 二寸尺丈の計算	一百までの加減乘除（主として二位の數と單位の數との乘除） 二日時の計算	同前	同前

第二八週	第二九週	第三十週
五	五	五
一百までの加減乘除 二乘算九々系統的練習	一百までの加減乘除 二合升斗の計算	百までの加減乘除

第三八週	第三九週	第四十週
五	五	五
百までの加減乘除總練習（既授の名數は洩れなく練習すべし）	同前	同前

算術科教授細目

尋常小學科第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　百時間

週	題目	時間	要項	注意
第二一週	凡一千までの數の加減乘除	五	加減乘除混合問題	
第二二週		五	一被除數二位三位及一千内外の數を單位の數にて除すること 二除法運算の形式を教ふ	主とすべきは除法なれども既授の加法減法乘法を適宜配合して課すべし
第二三週		五	同前	
第二四週		五	同前	
第二五週		五	同前	
第二六週		五	一同前 二加減乘除混合問題	
第二七週		五	加減乘除混合問題	

週	題目	時間	要項	注意
第三一週	凡千までの數の加減乘除	五	一二位の數に二位の數を乘ずること（積凡千以下） 二日時の計算	
第三二週		五	一凡そ千以下の數を二位の數にて除する法 二除數二位の除法運算形式を授く	
第三三週		五	一同前 二町間尺の計算	
第三四週		五	同前	
第三五週		五	一同前 二日週月の計算	
第三六週		五	加減乘除混合問題	既授の名數は此際洩れなく練習すべし
第三七週		五	一同前 二郵便事項及計算（第一種郵便　第二種郵便）	

週	時間	要項	注意
第二八週	五	一二位の數に二位の數を乘ずること（積凡千以下） 二乘數二位の乘法の運算形式を授く	
第二九週	五	一同前 寸尺丈の計算 メートル計算	
第三〇週	五	同前	
第三八週	五	同前	
第三九週	五	同前 貯金（郵便及銀行）及計算	
第四〇週	五	同前	

算術科教授細目

尋常小學科第四學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　八十時間

週	題目	時間	要項	注意
第二一週	被除數凡そ一萬以下の除法	四	一被除數の凡そ一万以下の除法（除數單位の一の位の零なるもの一の位十の位の零なるもの一の位十の位百の位の零なるもの）練習 二除數二位のもの一の位の零なる三位のもの除法（被除數凡そ一萬以下） 三里町間尺の命位計算	茲には新材料のみあげしかども既授の加減乘除法は適宜課して練習すべし以下之に倣へ
第二二週		四	同前	
第二三週		四	同前	
第三一週	小數の初歩	四	一分位厘位の呼び方書き方 二分位厘位の小數と帶小數との加減	
第三二週		四	一同前 二整數を割りて厘位に至る計算 三切上げ法	
第三三週		四	一同前 二四捨五入法 三切捨切上四捨五入の説明適用法	

第二四週	凡そ一萬内外の數の加減乘除		
	四	四	四
	一凡そ一萬内外の數の加減乘除混合問題 二貫、匁、斤、キログラム、グラムの計算	同前	同前

第二五週	第二六週	第二七週	第三八週
四	四	四	四
同前	一同前 二小包、現金封入、爲替 三壹、貳、參、拾の書き方	同前	同前

第三四週	第三五週	第三六週	第三七週
		通常の加減乘除	
四	四	四	四
一歩合單位割の説明 二簡單なる歩合高を求むる計算 三總高を求むる計算 四差高を求むる計算	同前	加減乘除混合問題	同前
一歩合高を求むる運算法は常に小數の乘法の仕方に準ずることなれば其の元の高を一割減ずるに先だち其の一割位の小數に置き二割三割を得るものなるこを了解せしめ速に練習せしむべし 二總高を求むる法は高差を先づ歩合高に加減するこに求めたる高を元の高に加ぬべし	此範圍に於ては稍々數に加減を擴めて億位小數厘位までの簡單なるものを含めて一日常世の諸種の問題を上に起るべし課すべ		

第二八週	第二九週	第三十週
	小數の初歩	
四	四	四
同前	一小數の意義分位の呼び方書き方 二分位の小數帶小數の加減	一同前 二整數を除して分位に至る計算問題 三切捨法

第三八週	第三九週	第四十週
四	四	四
同前	同前	同前

算術科(珠算)教授細目

尋常小學科第四學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數凡二十時間

週	題目	時間	要項	注意
第二週	加減配合の計算	一	前學期分總練習	
第二週	五顆を分ちて上位より借る減法	一	一同前 二五顆を分ち一ヶ所上位よりかる減法	
第二週		一	一同前 二五顆を分ちて上位より離れて或は連續して二ヶ所以上上位より借る減法	
第三週	普通の加減配合計算	一	一諸十進諸等數の命位布算 二三數以上の加法速算 三同上にして減法を混ずるもの	一數の範圍は筆算に準ず 二諸名數は各筆算の進行に準じて授くべし
第三週		一	同前	
第三週		一	同前	
第三週	普通加減配合計算	一	一億位まで及これに相當する貨の命位布算 二普通の加減速算(主として金錢の)	億位内外の加減は極めて簡單なるものに限るべし
第三週		一	同前	
第三週	小數の加減計算	一	一分厘位の小數の命位布算 二分位厘位の小數を有せる數の加減	
第三週		一	同前	
第三週		一	同前	

週	題目	時間	要項	注意
第二週				
第二週	普通の加減配合計算	一	一諸十進諸等數の命位布算 二三數以上の加法速算 三同上にして減法を混ずるもの	一數の範圍は筆算に準ず 二諸名數は各筆算の進行に準じて授くべし
第二週		一	同前	
第二週		一	同前	
第二週		一	同前	
第三週	普通加減配合計算	一	一億位まで及これに相當する貨の命位布算 二普通の加減速算(主として金錢の)	億位内外の加減は極めて簡單なるものに限るべし
第三週		一	同前	
第三週		一	同前	

算術科教授細目

高等小學科第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　六十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	複名數計算法	三	一複名數の必要、單名數と複名數の區別 二十進複名數と不十進複名數との區別並に記數法附足反の計算 三普通十進複名數の命法通法、附本邦貨幣	度量を授くべし
第二二週	時刻の制度計算	六	一日、時、分、秒の名稱命位 二日、月、年及日、週の名稱命位 三以上の通法 四曆年期限及時間の計算 五加減法 六應用問題	一月の大小及平年閏年等のこと及び百年を一世紀と稱することを附說す可し 二年齡の計算をもなさしむ可し
第二三週	不十進諸等數除法	三	三不十進諸等數に帶小數を掛くること 四應用問題	
第三一週				
第三二週			一不十進諸等數を整數にて割ること 二不十進諸等數を小數にて割ること 三不十進諸等數を帶小數にて割ること	一除法に於て法實共に同種類の名數なるときは何れをも

週	題目	時	要項	注意
第二八週		一	同前	
第二九週		一	同前	
第三〇週		一	同前	
第三八週		一	同前	
第三九週		一	同前	
第四〇週		一	同前	

第二四週	メートル尺度の計算	四	一キロメートル、メートル、サンチメートル、ミリメートルの命法通法 二丈尺制度との換算 三鯨尺と曲尺及メートル尺との相互の換算 四應用問題
			一米、粁、糎（珊知）粍の宛字をも授け置くを要す 二英尺ヤード、インフートをも附説す可し
第二五週	里程の計算	五	一里、町、間の名稱命位 二通法、命法 三加減法 四メートルと里町との相互の換算 五哩、海里、ノット、の名稱命位及里町との換算 六應用問題
第二六週	地積の計算	三	一歩（坪）畝反町名稱命位 二通法命法 三加減 四應用問題
第二七週			
第三四週			
第三五週			四不十進諸等數を同種の單名數にて割ること 五不十進諸等數を同種の複名數を以て割ること 六應用問題
第三六週			同一の單名數に化して後に運算を行ふべし
第三七週			

第二八週	重量の計算	六	一貫匁、及斤の名稱命位 二通法、命法 三グラム、キログラムの名稱命位 四グラム量の通法命法、及加減 五グラム量と貫目量との換算 六オンス、ポンドの名稱命位 七噸の名稱命位 八應用問題
			一十五分の四貫目を一キログラムとして換算することは分數數授後にては授くること、し此處にては三・七五グラムを一匁として換算せしむべし
第二九週			
第三〇週	不十進諸等數乘法	六	一不十進諸等數に整數を掛くること 二不十進諸等數に小數を掛くること
第三八週	諸等數計算練習	一五	
第三九週			
第四〇週			

算術科教授細目

高等小學科第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　六十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	分數小數練習	九	一分數小數相互の化法 二分數と小數との配合計算	
第二二週				
第二三週				
第三一週				
第三二週				
第三三週				

週	題目	時	要項	注意
第二四週	比及比例	一六	一比、比の値の説明 二比例式の説明 三比例の未知數を算出する法（整數のみの項より成るもの、小數の項を混するもの） 四正比例問題 五正比例と反比例との區別 六反比例問題	一比及比例の完全なる説明は算術の範圍のみにて能くする所に非らずされば深く立ち入りて説明を試みざる可し 二比例式に於てxは常に末項に取る可しこれ説明の困難を避くるのみならず兒童をして了解し易からしむ
第二五週				
第二六週				
第二七週				
第三四週	總練習雜題	三	一四則雜題 二諸等數雜題 三分數雜題 四單比例雜題	一本題目の下に於て高等小學科一二學年に於て授けたる所を通じて復習す可きものとす、これ一は第二學年を了りて中學校に進むものゝ爲をも計らんとてなり
第三五週				
第三六週				
第三七週				

週	題目	時	要項	注意
第二八週				
第二九週				
第三〇週				
第三八週				
第三九週				
第四〇週				

算術科教授細目

高等小學科第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　六十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	第三　歩合算	八	一 %（パーセント）の意義、用法 二 %の歩合計算によりて歩合算第一に於ける諸計算練習 三 %の歩合計算によりて歩合算第二に於ける諸計算練習 四 歩合算總練習	一 %即百分の一を以て歩合の單位とするこの單位とは英國より移り來りたるものにして「百分算」の名もこれより來りしものなれども現今我國にては金錢上の歩合を表はすに%を用ふることと稱なるこれにより此等の計算を「百分算」稱とする「歩合算」よりも一歩合稱する方當を得たるものと云ふ可る
第二二週				
第二三週				
第三一週	第三　株券及社債	九	一 會社の説明 二 株券の説明 三 社債の説明 四 社債と公債と株券との異同 五 株券の利益配當計算 六 株券、社債の損益、賣買計算	
第三二週				
第三三週				

第二四週	口錢、損益の計算	一口錢或は手數料の意義 附仲買人の業の大要 二口錢計算問題 三利益(純益)損失(雜費を差引きたる純損)の意義 四損益計算問題 五損益、口錢の配合問題
第二五週	九	
第二六週		一口錢の歩合を示すには賣價を元とせるか買價を元とせるかは一々示する可し、內割外割の區別名稱は未だ授け|し而して%は主として統計上の歩合に用ひられば問題も主として統計上のものを課す可し
第二七週	租稅の計算	一租稅の說明、國、地方、市町村稅の區別 二主なる國稅の種目並に稅率 三租稅の計算問題
第二八週		
第二九週	公債證書問題	
第三〇週	七	一公債及公債證書利札の說明 二額面高と市價との關係說明 三我國現時發行せる公債の種類利子歩合 四公債の利子計算問題 五公債賣買計算問題 六公債の利子賣買計算問題
		一利息算は未だ授け居らざれば四項の問題は期限に關する計算を用ひることなきものを撰ぶ可し
第三一週	保險	
第三二週	四	一保險の意義 二保險の種類 三保險金と保險料との區別 四保險料の計算問題 五損益計算問題
第三三週		
第三四週		一學年の終りなれば諸種の問題を取り雜へて練習し其間
第三五週		
第三六週		
第三七週		

第三八週	比例及歩合算	
第三九週	一七	
第四〇週	總練習	
		に分數小數の取扱をも練習す可し、中學其他へ轉校するものゝ便利ともならん

算術科教授細目

高等小學科第四學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　六十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	複利々息算第三	三	一期限に端數なき場合の元金を求むる計算 二期限に端數ある場合の元金を求むる計算 三同上曆年期間にあるもの	一初めは元利合計、利率、期限を與へ次に利息、利率、期限を與へて計算せしむ可し
第二二週	貯金利子計算問題	五	一郵便貯金法の説明 二貯蓄銀行の業務一班 三貯金利息計算問題	
第二三週				
第三一週	簿記法の大要	二	一簿記法の必要効果説明 二貸借の意義説明 三資産と負債との區別 四會社決算報告表の説明	
第三二週	直線平面形ノ面積ヲ求ムル計算（男）	六	一矩形の面積 二三角形の正高、底邊を知りたる場合の面積 三平行四邊形の梯形の同上のもの	一幾平方尺と幾尺平方との區別を明かに説明す可し
第三三週	（男）		一直徑、圓周率の説明、相	
第二四週	年賦償還計算	四	一年賦償還の説明 二年賦償還表の用ひ方及計算法 三驗算法	
第二五週				
第二六週	內外國貨幣制度及換算法	九	一本邦貨幣制度の大要 二各國貨幣名稱命位 イ英、磅、志、片、 ロ米、弗、仙、 ハ佛、法、參、 ニ獨、馬、布、 ホ露、留、哥、 ヘ清、兩、錢、 三我國貨幣と外國貨幣との換算	一二項に掲げたる六ヶ國は我國との關係最も多ければ特に此等諸國につきて三項の問題を課す可し然れども對照表には印度ルーピー等其他二三の著名國のものを掲ぐるも差支なし 二二項に於て二三の通法命法の問題を課す可し
第二七週				
第三四週	圓形ノ面積ヲ求ムル計算	三	一互の關係 二徑と圓周との內一を知りて他を求むる法 三圓の平面積を求むる法 四環形の平面積を求むる法	
第三五週	（男）體積ノ計算	三	一正方柱の體積を求むること 二三角柱の體積 三四角柱の體積 四圓柱の體積	一幾尺立方と幾立方尺との區別を明かに説明す可し
第三六週				
第三七週				一算術全般につき稍學科的に系統を立てゝ

週	題目	時	要項	注意
第二八週	外國爲替	三	一外國爲替の説明 二爲替相場の變動の説明 三外國爲替賣買計算法	新聞紙上の相場につき問題を設く可し
第二九週	外國貿易上ノ諸計算	六	一海關税の大要説明 二輸出入、噸税の計算 三輸出入の損益計算	
第三〇週	(女)家計簿記法	12	一家計簿記の必要 二費目の定め方 三記帳上の心得 四帳簿組立の説明及書式 五決算表 六以上の練習	男兒童に求積の計算を授くる間に女子に本題目のことを課す而して毎週二時間づゝ前後六週間にて完結せしむ可し、而して他の二時間の中一は珠算他は次に來る題目卽算術一般の練習をなさしむ可し 本題目を授くる間に修身の教授と相提携し女子に必要なる家政上の智識を與へんことを心掛く可し
第三八週	算術全般ノ練習	一六	順次各項の諸定義法則を復習し其間一二の問題を課す可し	
第三九週				
第四〇週				

算術科(珠算)教授細目

高等小學科第一學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數　二十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	加減速算練習	二	一無名數のものにつきて 二十進諸等數につきて	
第二二週		二	同前	
第二三週	二組の加法速算	一	一兩組とも無名數のものにつきて	
第三一週		一	同前	一實際上必要あるものなればよく練習す可きものとす
第三二週		二	同前	二兩組とも過大の數を取扱はしむることは避く可し
第三三週		一	同前	

週		
第二四週	一	同前
第二五週	一	一同前 二兩組とも同名數のものにつきて
第二六週	一	同前
第二七週	一	同前

週		
第三四週	一	同前
第三五週	一	同前
第三六週	一	一加法速算練習 二加減速算練習
第三七週	一	一同前 二二組の加法速算練習

週		
第二八週	一	同前
第二九週	一	同前
第三〇週	一	一同前 二各組異名數のものにつきて

週		
第三八週	一	同前
第三九週	一	同前
第四〇週	一	同前

算術科(珠算)教授細目

高等小學科第二學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數　二十時間

週	題目	時	要項	注意
第三一週	法一位の乘法練習	一		
第三二週	法二位の乘法	一	一位の取り方竝に運算法說明 二實一位乃至二位數のもの	各項に於て實となる可き數は初めは無名數の整數を以てし次に名數次に小數若くは帶小數等にも及ぶ可し
第三三週		一	一同前 二實三位の數のもの	
第三三週	法二位以下の乘除練習	一	練習	
第三四週		一		
第三五週		一		
第三六週		一		
第三七週		一		

週	題目	時	要項	注意
第二四週			一同前 二實四位、五位、六位の數のもの	
第二五週		一	一同前 二不十進諸等數通法の運算 三練習	
第二六週		一	練習	
第二七週	法二位の除法	一	一商單位の數となるものにつき位の取り方竝に運算法說明 二商數二位以下を求むるもの	一(一)の項は商單位の整數を得て割り切らるゝ數よりしらを問
第三三週		一		
第三四週		一		
第三五週		一		
第三六週		一		
第三七週		一		

週	時	要項	注意
第二八週	一	一同前 二商數三位を求むるもの	て說明し始むべし而して運算は筆算のものと對照すること可し
第二九週	一	一同前 二商數四位を求むるもの	
第三〇週	一	一同前 二不十進諸等數命法運算	
第三八週	一		
第三九週	一		
第四〇週	一		

算術科(珠算)教授細目

高等小學科第三學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數　二十時間

週題目	時	要項	注意
第二一週 法三位にして一商三位を求むる除法	一	一商三位の數を求むるもの	
第二二週	二	一同前 二商一の位の零なる三位の數を求むるもの	
第二三週		一同前 二商三位の小數若くは帶小數を得るもの	
第三一週	一	一同前 二小數を混ぜる十進數の加減乘除	
第三二週	一	一同前 二不十進諸等數の簡單なる加減	
第三三週	一	同前	

第二四週	第二五週	第二六週	第二七週
法數に小數を含む場合の乘除法			
一	一	一	一
同前	同前	法數分位の帶小數、小數の乘除	同前 同厘位までの乘除
筆算に於ける歩合算の計算を補助することに用ふ可し			

第三四週	第三五週	第三六週	第三七週
一	一	一	一
練習	練習	練習	練習

第二八週	第二九週	第三〇週	
		四則練習	
一	一	一	
同前 同毛位までの乘除	練習	十進整數の加減乘除	
		各項は何れも筆算の問題と連絡せしめ練習せしむ可し	

第三八週	第三九週	第四〇週	
一	一	一	
練習	練習	練習	

算術科(珠算)教授細目

高等小學科第四學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數　二十時間

週	題目	時	要項	注意
第二一週	不十進諸等數除法第二	一	一實數のみ複名數より成れるもの	本題目のものは「幾つ含むか」の意の割り算あれば先づ法實共に同位の單名數に化し置く可し
第二二週		一	同前	
第二三週		一	一同前 二法實共に複名數のもの	
第三一週	列國貨幣換算問題	一	一外國貨幣制度は筆算の場合に於て授けたるものによる可し	
第三二週		一		
第三三週		一		

第二四週		一	同前	
第二五週		一	同前	
第二六週	度量衡換算問題	一	一メートル度量衡と在來度量衡との相互の換算	
第二七週		二	一同前 二在來度量衡と英國度量衡との相互の換算	
第三四週	總練習	一		
第三五週		一		
第三六週		一		
第三七週		一		

第二八週	第二九週	第三〇週
一	一	一
同前	一同前 二メートル度量衡と英國度量衡との相互の換算	同前

第三八週	第三九週	第四〇週
一	一	一

日本歴史科教材配當表　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數三十時

教授事項及豫定時數　數字は教授豫定時數なり

學年	教授事項	教授豫定時數
三四		
三五	承久の亂	3
三六	明治二十七八年戰役	4
三七	元寇	2
三八	北條氏亡ぶ	2
三九	練習	2
四〇	練習	2
三四	北條氏の執權	2
三五	兩皇統の分立	1
三六	明治二十七八年戰役	3
三七	練習	2
三八	明治昭代の內政	3
三九	明治昭代の外交	4
四〇	練習	2

日本歴史科教材配當表　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數二十時

教授事項及豫定時數　數字は教授豫定時數なり

週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
二一	桓武天皇と坂上田村麿 3	德川家光 2	平安朝の初期 3	幕府の組織とその政策 3
二二		德川綱吉 新井白石 2		
二三	傳敎大師と弘法大師 2	德川吉宗 1	藤原氏の擅權 4	海外諸國との交通 3
二四	菅原道眞 2	尊王論 3		基督敎の傳來と島原の亂 2
二五				
二六	朝臣の榮華と武士のおこり 4	外艦の渡來と攘夷論 4	武士の興起と地方の騷擾 3	文學の復興と元祿時代 3
二七				
二八				
二九	源義家 3		後三條天皇と白河法皇 3	江戸幕府の中興と寛政の治 附天保の改革 2
三〇		大政奉還と明治維新 4		
三一	平清盛 4		源平二氏の盛衰 4	尊王論と國學の勃興 2
三二		臺灣征伐と西南の役 3		外艦の渡來 4
三三	源頼朝 3	憲法發布 2	鎌倉幕府 5	江戸幕府の衰亡 2
三四				
三五	承久の亂 3	明治二十七八年戰役 4	北條氏の執權 2	明治昭代の內政 3
三六			兩皇統の分立 1	
三七	元寇 2		北條氏の滅亡 3	明治昭代の外交 4
三八	北條氏亡ぶ 2	明治二十七年戰役 3		
三九				
四〇	練習 2	練習 2	練習 2	練習 2

歴史科教授細目

第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　三十時

週	教授事項及其注意
第二一週	桓武天皇と坂上田村麻呂（三時間） 一都を京都にうつし給ふ 遷都の理由について大略話せ 二平安京の制 京都の古今對圖を示すべし 三平安神宮 古の大極殿の雛形なり
第二二週	四坂上田村麻呂蝦夷を平ぐ 田村麻呂の肖像を示すべし 征討せし地方を地圖につき説明すべし 公は平野鄕町地方に關係あれば隨時附説せよ 東山の將軍塚も話すべし 田村麻呂の征討せし以來アイヌは如何になりしかを授けよ
第二三週	傳教大師と弘法大師（二時間）

週	教授事項及其注意
第三〇週	平清盛（四時間） 一源平二氏 東西に對峙してその勢相下ざりし有樣を説け 二保元の亂 源爲朝の事蹟を附説せよ 三平治の亂 常盤御前牛若丸等のことを附説すべし
第三一週	四清盛のわがまま 道長と比較せよ 五重盛父をいさむ （後寛の島流しを授けたくもよし） 六以仁王の令旨、諸國の源氏ならびおこる わが國は古來兵を起すに必ず主家の命を待つこれ外國に例なき所なり王の令旨もまた然る所以を知らしめよ
第三二週	源頼朝（三時間）

この時代には僧侶に賢き人多きこと及これ等僧侶のわが國の文化に及ぼせし利害を知らしめよ

一最澄と延暦寺
今日の比叡山を話せ

二空海と金剛峰寺
いろは歌を附說せよ

三空海用水池の工事を助く
弘法大師については「お大師さん〳〵」といひてその尊崇の一通りならざると共に俗說少なからず注意すべし

第二四週

菅原道具

（二時間）

天神樣については兒童既得の智識少からざれどもまた附會の說多し注意せよ

一藤原氏攝政となる
（この頃は十分その原因を知らしめかざるべからず）

二藤原の基經、關白

三道眞の幼時

四道眞重く用ひらる

五時平道眞をざんす

六道眞太宰權帥におとさる
配所にあるも常に天恩を忘れざる所に力を用ひよ
（備考）こちふかば　匂ひおこせよ　梅の花　あるじなしとて　春な忘すれそ

第二五週

去年今夜侍清涼　秋思詩篇獨斷腸
恩賜御衣今在此　捧持毎日拜餘香

七天滿天神
天滿菅原神社もしくは附近の天神社よりこの題目に入るべし

第二六週

朝臣の榮華と武士のおこり

（四時間）

一地方の政治みだる
朝臣武備を怠りしによること

二天慶の亂
四國及東北地方の略地圖
將門の如き謀反我が國に於てはその例なし而して天誅立どころにいたれり兒童をしてよろしく深く「我が皇室の神聖にして犯すべからず」の意を知らしむべし

三武士世の中の亂を平ぐ
武士の勳功は源平二氏の興起するにいたる端緒なり

四藤原道長
道長の人となりと行爲とを批判せしめて「盈つれば虧く」の格言を示せ
この世をば　わが世とぞ思ふ　もち月の
かけたることの　なしと思へば

五後三條天皇、白河天皇
（當時院政の必要なりし所以をも授けよ）

第三四週

一賴朝東國よりおこる
東國より起りしは祖父の遺勳によることを授けて祖先を敬するの美風を養ふべし
賴朝及義經の幼時を說け

二平氏勢を失ふ
平氏の西の方にのがれしも父祖の遺勳なほその子孫を助けしなり

三木曾義仲
宇治川の先陣も話せ
賴朝と比較せよ

四平氏亡ぶ
一谷　屋島　壇浦に於ける義經の勳功を詳密に語れ
（那須與一の扇の的を射しことに說き及ぼし當時の戰狀を想像せしむるも可なり）

五日本全國賴朝に從ふ
賴朝の友愛の情を缺きしことを記憶せしめて後の準備とすべし

六鎌倉幕府、武家政治
鎌倉地方の詳密圖によりて當時の覇業一班を知らしめまた源氏は大に武士道の發輝に勉めしことも說くべし

第三五週

承久の亂

（三時間）

一幕府の實權　北條氏にうつる

源氏の三代にして亡びし所以を說明せしめよ
平氏の滅亡と比較せよ

二後鳥羽上皇
上皇の御企圖についてはやゝ詳しく說明しおくべし

三三上皇遠國にうつさる
義時の暴逆の實に憎むべきことを話し北條氏の末路を豫想せしむべし

四六波羅の役所
おきし目的を知らしめよ

第三六週

元寇

（二時間）

一北條泰時　時賴
泰時時賴の勤儉撫民はやゝ父祖の罪ほろぼしとなりしこと
松下禪尼の話

二北條時宗
時宗の幼少時代を少し話せ
明治三十七年六月從一位を贈らる

三元わが國にあだす
當時の支那の狀態及忽必烈の企圖を大略話しおくべし

四元兵大にやぶる
時宗の膽力　我兵の義勇　國民の一致等を話してわが神國の古來決して犯されしことなきを知らしめ現代國

第三七週

第二八週

源義家　（三時間）

一 義家の父祖
源氏の系圖を示して説明すべし

二 前九年の役
義家の勇戰並に當時の戰爭の有樣

年を經し　糸のみだれの　くるしさに
衣のたては　ほころびにけり

第二九週

三 後三年の役
八幡太郎義家の性行と大江匡房の博學とを附説すべし
（備考）ふく風を　名こそのせさと　思へども
みちもせに散る　山櫻かな

第三八週

民の覺悟と自信とを喚起すべし

北條氏亡ぶ　（二時間）

本題目は修身科教材として十分の價値ありその心して授くべし

一 後醍醐天皇鎌倉を亡さんとし給ふ
日野資朝及その子邦光のことを附説せよ

二 高時天皇をうつしたてまつる
承久の亂のときと比較すべし

三 楠木正成
正成の精忠智謀終に天下の大勢を動かすに至る南河内にその遺跡多し隨時附説せよ

四 護良親王
親王の勇戰　村上義光の忠死を話せ

五 新田義貞　足利尊氏官軍となる
兩氏の歸順せし理由を知らしめよ

六 北條氏亡び天皇京都に歸りたまふ
三種の神器のある所を知らしめよ

第三九週

第四〇週

練習　（二時間）

歴史科教授細目

第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　三十時

週	教授事項及其注意
第二一週	**徳川家光**　（二時間） 一 參勤交代 家光の諸大名に對する態度を話せ （春日局を附説するも可なり） 二 鐵砲の傳來 戰術に與へし影響につきてはやゝ委しく授けよ 三 キリシタン宗 當時外國に往來せし人人の進取勇敢なる行爲は永く國民の模範とすべきこと 佛教の傳來とキリシタン宗の傳來との比較並に利害得失を考へしめよ 四 島原の亂 この亂の結果として佛教の盛になりしことを授けよ 五 外國交通を禁じたる結果
第二三週	**徳川綱吉、新井白石**　（二時間）
第二九週	**大政奉還と明治維新**　（四時間） 一 大政奉還を將軍にすすむ 徳川幕府顚覆と北條氏足利氏等の滅亡とを比較せしめよ 二 王政復古慶應三年十二月の大改革 三 明治の新政 現今の元勳と維新との關係を知らしめよ 四 鳥羽伏見の戰、慶喜追討 五 彰義隊、松平容保、榎本武揚 會津の白虎隊を附説せよ 六 五ヶ條の大詔 立憲制度の基たることを説け 七 江戸を東京とす この頃に元を明治と改め一世一元の制を定めらる 八 土地人民を朝廷にかへす、藩を廢し縣とな
第三〇週	
第三一週	

第二三週

一 徳川光圀、大日本史
光圀の人となり大日本史編纂の趣旨を説け
二 徳川綱吉學を好む、名高き學者
和漢學の興隆
洋學研究
三 綱吉の弊政
殺生禁斷、大公方といはれしこと
赤穂義士を附説して復讐の害に及べ
四 新井白石
白石の幼時苦學せしことを附説すべし

徳川吉宗 (一時間)

一 徳川幕府中興英主吉宗の政治
政治は實用を主として虚禮を避くるにありし吉宗の精神に主力を用ひよ
二 室鳩巣
三 大岡忠相
大岡忠相の裁判につきやゝ委しく述べよ
四 吉宗心を産業に用ふ

第二四週

尊王論 (三時間)

一 田沼意次政を亂る
賄賂の弊害を知らしめよ
家治の世の明和九年の弊政を世の人は「めいわくのこ

す
この頃に皇華士族平民の別を定めらる

第二二週

臺灣征伐と西南の役 (三時間)

一 朝鮮事件
征韓論の要點を知らしめよ
二 臺灣征伐
この征伐は日清間に如何なる影響を與へしかを説け
三 明治十年西南の役
隆盛の擧兵
谷干城熊本の城守、田原坂、城山、隆盛の人物其長所

第二三週

四 隆盛賊名を除かる
隆盛銅像の圖を示せ

憲法發布 (二時間)

一 衆議により政治をなしたまふ
二 國會開設の詔
この頃に於ける自由民權説と政黨の活動

第二四週

三 憲法發布
發布式當日の光景並に憲法の大略を説述せよ
四 帝國議會開會
帝國議會開會等によりて我等臣民の得たる幸福を知らしめよ

し」といひしこと
二 朝廷に對する幕府の處置
「人或は將軍あるを知りて天皇の尊さを知らず」に主力を用ひよ

第二五週

三 尊王論おこる
水戸の學風について説述せよ
四 松平定信(白河翁)水野忠邦
定信の儉約と尊王とを説き山陽を附説すべし
五 慷慨家おこる
幕府の弊政に對する慷慨家の意向に主力を用ひよ
六 本居宣長
國學の勃興と尊王論との關係を知らしめよ

第二六週

外艦渡來と攘夷論 (四時間)

一 幕府衰亡のきざしおこる
當時世界の大勢を大要話すべし
二 外國船うちはらひを命ず
ロシヤ人北海道を騒ぜしについては近藤守重間宮林蔵高田屋嘉兵衛等の事蹟を附説せよ

第二七週

三 ペルリ來り幕府處置に窮す
ペルリの紀念碑を附説せよ
四 井伊直弼
井伊直弼の果斷並に其失政を説き刺客の弊害を述べよ

第三五週

明治二十七八年戰役 (四時間)

一 明治八年及十五年の朝鮮事件
二 明治十七年朝鮮事變、天津條約
日韓古來の關係を復習的に説述せしめ天津條約に力を用ふべし
三 日清兩國開戰す
大本營を廣島にすゝめられて日夜軍事に御心を用ひられしことを知らしめよ
四 下關條約
五 遼東半島を還附す(三國同盟)
還附の詔を捧讀して敵愾心を起さしむべし

第三六週

六 明治三十三年清國事變
各國聯合軍のことを話すべし
(備考)わが校卒業生兒島正一郎氏は北京籠城中義勇軍に加はりて戰死せしことを附説するも可なり
七 條約改正
從來の條約との比較

第三七週

八 日英同盟
同盟の目的を明に知らしめよ

明治三十七年戰役 (三時間)

遼東半島の還附と連絡せしめて授くべし
一 露國は旅順大連灣を租借す

第二八週
五尊王攘夷論者
開港説と攘夷説との利害得失を知らしめよ
天誅組を附説するも可なり
六長州征伐
この結果については幕府に如何に影響せしかを推究せしめよ

第三八週
租借後の旅順大連灣の有樣及東洋艦隊の增派等を話すべし
二露國滿州を領し威を韓國に振はんとす
東清鐵道の布設　滿州の增兵等を話すべし
三日露兩國開戰す
宣戰の詔勅、仁川旅順の海戰
旅順方面遼陽方面の陸戰
烏港艦隊の暴行等を授くべし

第三九週

第四〇週
練　習　（二時間）

歴史科教授細目

第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）　教授豫定時數　三十時

週	教授事項及其注意
第二一週	**平安朝の初期**　（三時間） **一**平安京 平安の舊都と現今の京都とを比較せしめてその沿革大要を知らしむべし **二**平安朝 （小野小町　飛彈の工匠　百濟の河成等を話して當時の文學工藝一斑をも知らしめよ） **三**蝦夷征討 大野東人の功蹟をも話せ **四**渤海國との往來 （主として佛教のことを説け） （空海は「神は佛の權化なり」と説きしこと） **五**藏人所、檢非違使 **六**有名なる漢學者、私立の學校 これら私立の學校は貴族の子弟を教育するのみ故に當時平民にして學問を以て身を立てんには僧となるの外
第二二週	
第三〇週	**源平二氏の盛衰**　（四時間） **一**平氏大にあらはる 平氏の白河法皇の御信任を蒙りし理由 **二**保元の亂 此亂の原因の一朝一夕にあらざることを語るべし 源爲朝の子孫に説き及ぼせ **三**平治の亂 藤原信西の末路 源氏の零落のさまを話すべし **四**清盛の專横 重盛の諫言 **五**源氏ならびおこる 治承の亂は少しく詳しく話せ 源氏の東國に起りし所以を考へしめよ **六**平氏亡ぶ 壇の浦の決戰、平氏の最後の勇壯一致
第三一週	

なかりしこと

第二三週

藤原氏の檀權　（四時間）

一藤原氏常に攝政關白となる
　莊園のことを少し話しおくべし

二菅原道眞大宰府にうつさる
　當時儒門の家格を附說せよ
　道眞の系譜を示せ

三藤原氏たがひに權力を爭ふ
　兄弟叔姪相爭ふ有樣を明かに知らしめよ

第二四週

四藤原道長の榮華
　三條天皇の「心にもあらで憂き世に長らへば戀しかるべき夜半の月かな」の歌と道長の「この世をば我世とぞ思ふ望月の缺けたることの無しと思へば」の歌とをなじ雲居の月ながらその眺め異なるを深く感ぜしむべし

第二五週

五國文盛に行はる
　奈良朝の文學を比較せしめよ
　當時文學の後世に及ぼせる効果

六巨勢金岡、定朝
　金岡は日本畫の始めをなせしこと

武士の興起と地方の騷擾　（三時間）

一天下の亂のきざし
　騎るものは久しからず
　左の如く源平二氏は常に交互して執政せる狀態を知らしめ且その勢力のいかに强かりしかを想像せしめよ
　平氏、源氏、北條氏（平氏）足利氏（源氏）織田氏（平氏）德川氏（源氏）

第三二週

鎌倉幕府　（五時間）

一賴朝幕府の基を定む
　（幕府の官制を表にして示せ）

二賴朝その羽翼を失ふ
　曾我兄弟をも附說せよ

第三三週

三源氏滅亡後の鎌倉幕府
　賴朝の行爲を批判せしめよ

四平氏の奢侈、源氏の質素、武士道
　當時の武器の進歩及武士道の發輝についてはやゝ詳密に語れ

第三四週

五學問衰ふ
　（この頃より平氏の子弟教育は寺院に托したるにより後世寺子屋の名ところ）

第三五週

六佛教　新興の諸宗派
　この頃佛教に歸依するもの多くなりし原因を知らしめよ

北條氏の執權　（三時間）

莊園の害を知らしめよ
　延喜天曆の治を說くに誤解せしめぬよう注意すべし

二武士おこる

第二六週

三平將門反す
　中央政府が地方の政治を顧みざりしこと
　朝廷は當時門閥を重んじ人材を輕んずるの結果官位を惜みしこと

四藤原純友反す
　海賊とは如何なるものかを知らしめおくべし

第二七週

五源氏
　源滿仲は池田町の少し北なる多田神社に祀らる
　當時源氏の勢力及活動の模樣を委しく知らしめよ

六刀伊の賊入寇す
　韓土地方と我國との關係を話せ
　將士の賞につき當時朝廷の評議

後三條天皇と白河法皇　（三時間）

第二八週

一後三條天皇の記錄所
　天皇は　源師房　大江匡房の兩賢才を登用せしこと及記錄所をおかれし御旨趣を話せ
　天皇の御聖德並に御聖德の藤原氏をも感ぜしめたること

第三六週

一北條時政
　時政の行爲を批判せしめてその人となりを想像せしめよ

二源氏の正統絕ゆ
　實朝の和歌に堪能なりしこと
　平氏の滅亡と比較せしめよ

三尼將軍
　事に臨みて迷はざる女丈夫なりしこと
　源氏の亡ぶるを救ふこと能はざりしこと

四承久の亂

五六波羅探題、將軍實權なし
　賴朝幕府を開きたる後も大事はなほ奏聞したる上ならでは行はざりしを承久の亂後は大臣の進退は更なり御世嗣の事までも陪臣たる北條氏の計らひとなりしことを明かに知らしむべし

第三七週

兩皇統の分立　（一時間）

一兩統かはるがはる立つ
　北條氏がかく計らひたるは自ら公家の勢力を弱めんためなること

二攝關家分立す
　この攝關家の今に連綿として存せるを知らしめよ

第三八週

北條氏の滅亡　（三時間）

第二九週

二白河法皇の院政
院政の必要を說け
後三條天皇の政と比較對照せしむべし

三僧兵
僧寺のかく盛大なる莊園を得たる所以について考へしめよ
僧兵の橫暴については白河法皇の仰せられし「天下意の知くならざるもの……」に力を用ふべし
崇敬に伴ふ弊害を知らしめむべし

四源平二氏京都に勢力を得

第三九週

一北條泰時、時賴
貞永式目の內容を少し話しだけ
靑砥藤綱を附說せよ

二北條時宗、高時
元寇の我國に及ぼせし諸方面の影響を知らしめよ

三後醍醐天皇、光嚴天皇
後醍醐天皇の御企圖について委しく語れ
(備考)さして行く　笠置の山を　出でしより
天下には　隱所もなし
いかにせん　賴むかげとて　立ちよれば
なほ袖ぬらす　松の下露

四勤王の軍所所におこる
正成の精忠智謀終に天下の大勢を一變するに至る
天皇の御艱難と勤王軍の活動とを知らしむるにあり

五足利尊氏、新田義貞
兩氏の家格をのべよ

六北條氏亡び政權朝廷に返る

第四〇週

練習　(三時間)

歴史科教授細目

第四學年　後學期(十月十六日より三月末日まで)　教授豫定時數　三十時

週	教授事項及其注意
第二一週	**幕府の組織とその政策**　(三時間) 家康は外に對しては飽くまで自家の基を固むる方を立てたりしなりその心して授けよ 一武家諸法度、公家諸法度 その內容の一斑を示すべし 二幕府の組織 一覽表にして鎌倉幕府の組織と比較せしむべし 德川氏三百年の基を固めしは家光時代に至るまでにありしことを知らしめよ 三京都に對し奉る政策 (僧天海のことを附說するも可なり) 四諸大名に對する政策 外樣大名と譜代大名との待遇上の差違及家光の諸大名に對する態度を話せ 五三家三卿
第二二週	**尊王論と國學の勃興**　(二時間) 一武家の政治に馴る 武家政治中の皇室の御有樣を知らしめよ 二國體を明にするものやうやく出づ 幕府の尊王論者に對する處置について批判せしめよ 三國學の勃興 當時の國學者と漢學者及神道と佛敎とを說述すべし 四賴山陽　日本外史 (日本外史編述の主旨を德川光圀の大日本史と比較して話すべし)
第三一週	**外艦の渡來**　(四時間) 一林子平海防を說く 米國の勃興英露の膨脹を地圖によりて說明せよ 二ロシヤ船　北海道に來る 蝦夷にて家をやき物を掠めなどして暴行を加へしこと

六法度の厲行
七參勤交代

第二三週

海外諸國との交通（三時間）

一朝鮮支那との交通
日清韓交通の沿革大要を知らしめよ
二家康意を外國貿易に用ふ
貿易を盛にせんとせしも外國と政治上の關係を起さしめじと務めたるなり注意すべし
三わが國人海外に航路を開く御朱印船
海事思想を養成すべし
四海外に渡りし人人
當時のローマ、ポルトカル、スペイン、英國、オランダの繁榮について說話すべし
五海外の日本街
現今の海外在留人と比較して授けよ
六山田長政
長政の人となり及航海遠征のことを授くべし

第二四週

第二五週

基督教の傳來と島原の亂（二時間）

佛教傳來の當時と比較して授くべし
一キリシタン宗、南蠻寺、ゼスイット宗
二家光海外渡航を禁ず
家光キリシタン宗の弊にたへずして海外渡航までも禁ぜしは當時の時勢に鑑みたるなり兒童をして誤解せしむべからず
三キリシタン宗徒亂を島原に起す
キリシタン宗の渡りしより九十年餘なるがその前後に殺されしもの二十八萬人の多きに及べるを話して德川氏は如何に苦心せしかを知らしむべし
踏繪のことを話せ
亂後の佛教について附說すべし
四幕府鎖國の方針を確立す
當時の長崎を十分知らしむべし
鎖國と文化の關係を述べよ

第二六週

文學の復興と元祿時代（三時間）

一家康學問を奬勵す
治平の政策として學問を奬勵せしことを說き文武兩道の必要を知らしめよ
二中江藤樹、熊澤蕃山
その人格について語れ
三幕府の學政林家に歸す

第二七週

四元祿時代の文學
德川光國及大日本史の編纂
貝原益軒僧契沖を附說せよ

を知らしめよ
三攘夷論やうやく起る
攘夷論と開國說とについて批判せしめよ
四洋學の起原
オランダ學の我國に及ぼせし影響を說け
五ペルリ來りて修好通商を請ふ
（備考　幕府はよほど狼狽せしものと見ゐてその時の有樣を
太平の　眠をさます　じょーきせん
たった　四はいで　夜もねられず
と詠みたるものあり）

第三三週

六ハルリス來る
七井伊直弼
假條約の性質を知らしめよ
直弼の果斷竝に失政竝に幕府の衰亡に向つて次第に歩を進むることを知らしむべし

第三四週

江戸幕府の衰亡（二時間）

一公武合體
二生麥事件
彼我の國情を知らしめよ
三攘夷の實行
薩州長州二藩の活動その他攘夷論者の重なる人の事蹟を話すべし
四攘夷親征の詔を下さんとしたまふにあたり朝議一變す
はじめ攘夷論者の京都に集りしは何故かを考へしめ溫和論者の論旨は大要授くべし
五幕府長州征伐の軍を起す
六將軍慶喜政權を奉還す
政權奉還の顚末はやゝ委しく話して慶喜の至誠國をもひしを知らしめよ

第三五週

明治昭代の內政（三時間）

大化の改新と比較して敎授すべし
一王政復古、慶應三年十二月九日大改革、官制改革
（明治二年及十八年の官制改革もあはせ授くべし）
二鳥羽伏見の戰　慶喜追討東北平定
三五箇條の御誓文
明治の新政の本なれば大に力を用ふべし
四今上天皇即位したまふ
五封土人民奉還　廢藩置縣
家祿奉還と公債證書及士農工商の人權平等につきて附說せよ

第三六週

六太陽曆を行ふ
七徵兵の制

平民文學の隆盛については注意すべし
五四代將軍家綱、五代將軍綱吉
當時諸大名の有樣を大略知らしめよ
六元祿風、美術工藝
當時の風俗は現今と比較せしめよ
人口に膾炙せる當時の美術工藝家の製作品を紹介すべし

第二八週

江戸幕府の中興と寛政の治

附　天保の改革　（二・時間）

一六代將軍家宣、七代將軍家繼
新井白石　河村瑞賢の功績を話すべし
二八代將軍吉宗の政治
幕府の中興たる所以を明にすべし

第二九週

三田沼父子の專横
四松平定信、寛政の治
定信の性格及功績を列擧してその儉約と尊王とを知らしむべし定信退職せしより家齊驕奢に傾きその晩年に大鹽平八郎の亂ありしことを附説せよ
五水野忠邦、天保の改革

第三七週

德川時代の兵制と比較せよ
八元老院、大審院、
九地方官會議　府縣會
一〇市町村郡區府縣制
一一國會開設の詔　憲法發布　帝國議會召集
立法　司法　行政の政治組織及自治制度の意義を述べよ

明治昭代の外交

（四時間）

外交に關して人民の態度一變せしについては深く推究せしむべし
一諸外國と和親を結ぶことを布告す
二征韓論
日韓の關係についてはその來歴大要を話せ
三清國と條約を結ぶ
四臺灣事件
この事件の日清間に及ぼせる影響を說け
五千島　カラフト島の交換
小笠原島を我國の屬島と定めしことを附說せよ
六朝鮮國と條約を結ぶ
七明治二十七八年戰役
戰役の原因功果、臺灣の經營を述べよ
八條約改正

第三八週

地理科教材配當表　後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

週 / 學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
三五	新潟縣 3			
三六	富山縣 1	臺灣 4		
三七	石川縣 2			
三八	福井縣 2	日本帝國總括 2		
三九			北アメリカ洲總論 1	
四〇	本州中部地方總括 2	地球 3	カナダ 1	
			アメリカ合衆國 3	商業 3
			メキシコ、中央アメリカ諸國西印度諸島 1	交通 3
			南アメリカ洲 3	總括 2
			總括 1	

地理科教材配當表 後學期（十月十六日より三月末日まで）

數字は教授豫定時數なり

週／學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
二一	青森縣 2	九州地方 1	スウェーデン、ノールウェー 1	人種人口及言語 4
二二		福岡縣 3	デンマルク、獨逸 2	
二三	秋田縣 2		オーストリヤ、ハンガリー 1	
二四	山形縣 1	大分縣 1	スイス 1	政治 附兵備 9
二四	奥羽地方の統括 1	佐賀縣 1	フランス 2	
二五	本州中部地方 1	長崎縣 2	ベルギーとオランダ 1	
二六	靜岡縣 3	熊本縣 2	イギリス 3	
二七		宮崎縣 1	イスパニヤ及ホルトガル 1	
二八	山梨縣 2	鹿兒島縣 2	イタリヤ 2	
二九		沖繩縣 2	バルカン半島 2	教育と宗教 3
三〇	愛知縣 3	北海道 6	ヨーロッパ洲總括 1	産業 6
三一	岐阜縣 2		アフリカ洲 3	
三二			北アメリカ洲總論 1	
三三	長野縣 3		カナダ 1	
三四			アメリカ合衆國 3	商業 3
三五	新潟縣 3	臺灣 4	メキシコ、中央アメリカ諸國西印度諸島 1	交通 3
三六	富山縣 1		南アメリカ洲 3	
三七	石川縣 2	日本帝國總括 2	總括 1	總括 2
三八				
三九	福井縣 2	地球 3		
四〇	本州中部地方總括 2			

地理科教授細目

高等小學科第一學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數　三十時間

週	教授事項及其注意
第二一週	**青森縣**　（二時間） 一、本州極北の要地として本縣を理解せしむべし 二、津輕海峽はアメリカより日本海に出づる爲の咽喉なるを知らしむべし 三、本縣の海岸線が本縣をして要地たらしむるに適せることを知らしむべし 四、第五聯隊兵士の雪中行軍の遭難を話し此地方の甚寒くして雪多きことを知らしむべし 五、青森國館間の交通を說くべし 六、軍備、大湊の水雷團弘前八師團青森の五聯隊津輕半島の砲臺につき話すべし
第二二週	
第二三週	**秋田縣**　（二時間） 一、鑛產地として本縣を理解せしむべし
第二四週	**山形縣**　（二時間） 一、米澤市織產の由來を說くべし 二、最上川が本縣の一大交通線なることを知らしむべし **奥羽地方の統括**　（一時間） 山脈、河流、平地、海岸線、季候、天產、生業、都邑、交
第二五週	四、名古屋市が四通八達の要地を占め居ることに付きて了解せしむべし
第三一週	**岐阜縣**　（二時間） 一、本縣西部が我國にて水害の尤頻繁の地なることを語るべし 二、關ヶ原の地勢を語りて其地利如何を知らしむべし 三、本縣の富源を考へしむべし 四、飛彈の地高くして季候寒きことを知らしむべし
第三二週	
第三三週	**長野縣**　（三時間） 一、本縣も飛彈と同じく地高くして寒き事を知らしむべし 二、山梨岐阜二縣と比較して本縣の生業物產を考へしむべし 三、本縣の犀川千曲川及其平地は山形縣の最上川及其平地に比すべし 四、本縣の富源を見出さしむべし
第三四週	
第三五週	**新潟縣**　（三時間） 一、上越後海岸の斷崖と激浪との關係を知らしむべし（伊豆紀伊の東南岸にあるものと比較し得べし） 二、高田は我國にて尤雪深き地なりこれに付けて日本海沿

通、政治等の論理的關係を糾し且季候、生業物産、人情、風俗、等につきて奥羽全體を概括すべし

第二五週 **本州中部地方** （一時間）

一、位置地勢區劃、特に此地方は本州の最高部なることを知らしむべし
二、氣候が地勢に關せることを知らしむべし
三、教授の順序に於て山形縣より靜岡縣に移り山梨縣より愛知縣に移るが如き甚良からずなるべくは山形縣より新潟縣に入り次に長野、山梨、靜岡、愛知、岐阜、富山、石川、福井、の順序をとるが可なるべし

第二六週 **靜岡縣** （三時間）

一、日本第一の茶の産地として本縣を理解せしむべし
二、富士山をば単峯なる成層火山の例として其狀況と美とを知らしむべし

第二七週 **山梨縣** （二時間）

一、本縣は海岸に沿はざる盆狀地なることを知らしむべし
二、四境山にして交通不便なる山地の得失を説き武田氏が五百年の繁榮を致せし所以を了解せしむべし
三、中央鐵道と本縣の繁盛との關係を説くべし
四、本縣の富源を考へしむべし

第二九週 **愛知縣** （三時間）

一、本縣が天正時代英雄の故郷たることを説くべし
二、畿内關東の間に於て商工上有望の要地たることを説き農産及工藝作品につきては稍詳細に説くべし
三、濃尾平野及伊勢三河内海の沿岸に於ける名古屋市の形勢を東京市の形勢と比較せしむべし

第三〇週 **岐阜縣** （二時間）

一、位置、韓半島に對し本州四國に對し諸海峡を作りて日本海、瀬戸内海を作れる好位置を知らしむべし
二、地勢、三斜面をなせることを見させ斜面の廣狹と河流の大小平地の廣狹と比例するを知らしむべし
三、海岸の屈曲尤良く各その效を表し居る事を知らしむべし
四、都邑交通線の位置が形勢よき海岸と斜面の麓とにありて理論に適へる事を見さしむべし

第三一週 **福井縣** （三時間）

一、我國中尤顯なる石炭産地として本縣を理解せしめそれが地方の繁昌及人情に及ぼす影響を知らしむべし
二、本縣の富源と都邑及交通線の發達との關係を知らしむべし
三、門司、小倉が如何なる要地なるかを知らしむべし
四、八幡に製鐵所を設けし所以を考へしむべし

第三二週 **大分縣** （一時間）

一、大阪と本縣との人文の關係を知らしむべし

第三三週 **佐賀縣** （一時間）

一、海岸の雪の多き理由を説くべし
二、石油産地として本縣を理解せしむべし
三、米産及織産等本縣の富源を考へしめこの良地と軍備との關係をも話すべし
四、本縣の農産は自然に大地主の形をなし居れり稍その生活狀況を話すべし
五、

第三六週 **富山縣** （一時間）

一、本縣が狹き割合に河流多く平地開け物産多き事を知らしむべし
二、物産、富山市賣藥の盛衰は我國人の開化と反比するを示すを知らしめよ

第三七週 **石川縣** （二時間）

一、能登半島の成因及その海岸の效用を知らしむべし
二、加賀の海岸には多くの潟ありその成因を略述すべし

第三八週 **福井縣** （二時間）

一、羽二重産地として本縣を理解せしむべし
二、敦賀以西の海岸線は日本海沿岸中出入尤著しきものなりその成因と共によくこれを理解せしむべし

第三九週 **本州中部地方總括** （二時間）

一、奥羽地方の統括に準じて行ふべし
二、畿内と關東との中間に位するを以て住民も多く農商工の業より交通まで尤よく開け人文も尤開化し居ることを知らしむべし

地理科教授細目

高等小學科第二學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數　三十時間

週	教授事項及其注意
第二一週	**九州地方** （一時間） 一、位置、韓半島に對し本州四國に對し諸海峡を作りて日本海、瀬戸内海を作れる好位置を知らしむべし 二、地勢、三斜面をなせることを見させ斜面の廣狹と河流の大小平地の廣狹と比例するを知らしむべし 三、海岸の屈曲尤良く各その效を表し居る事を知らしむべし 四、都邑交通線の位置が形勢よき海岸と斜面の麓とにありて理論に適へる事を見さしむべし
第二二週	**福岡縣** （三時間） 一、我國中尤顯なる石炭産地として本縣を理解せしめそれが地方の繁昌及人情に及ぼす影響を知らしむべし 二、本縣の富源と都邑及交通線の發達との關係を知らしむべし 三、門司、小倉が如何なる要地なるかを知らしむべし 四、八幡に製鐵所を設けし所以を考へしむべし
第二三週	**大分縣** （一時間） 一、大阪と本縣との人文の關係を知らしむべし
第二四週	**佐賀縣** （一時間）
第二五週	**本州中部地方** （一時間） 一、位置地勢區劃、特に此地方は本州の最高部なることを知らしむべし 二、氣候が地勢に關せることを知らしむべし 三、教授の順序に於て山形縣より靜岡縣に移り山梨縣より愛知縣に移るが如き甚良からずなるべくは山形縣より新潟縣に入り次に長野、山梨、靜岡、愛知、岐阜、富山、石川、福井、の順序をとるが可なるべし
第二六週	**靜岡縣** （三時間） 一、日本第一の茶の産地として本縣を理解せしむべし 二、富士山をば単峯なる成層火山の例として其狀況と美とを知らしむべし
第二七週	**山梨縣** （二時間） 一、本縣は海岸に沿はざる盆狀地なることを知らしむべし 二、四境山にして交通不便なる山地の得失を説き武田氏が五百年の繁榮を致せし所以を了解せしむべし 三、中央鐵道と本縣の繁盛との關係を説くべし 四、本縣の富源を考へしむべし
第二九週	**愛知縣** （三時間） 一、本縣が天正時代英雄の故郷たることを説くべし 二、畿内關東の間に於て商工上有望の要地たることを説き農産及工藝作品につきては稍詳細に説くべし 三、濃尾平野及伊勢三河内海の沿岸に於ける名古屋市の形勢を東京市の形勢と比較せしむべし
第三〇週	**沖縄縣** （二時間） 一、熱き溫帶國として小笠原島に比較し以て本縣の季候、天産、生業を了解せしむべし 二、人文地理に於ては臺灣、南清に比すべきものあり言語は我國に近しよく其點を了解せしむべし 三、古來我が國との歷史關係につきてよく了解せしむべし
第三一週	**北海道** （六時間） 一、寒き溫帶國として本道の季候、天産、生業を理解せしめ他日殖地を學ぶ時の基礎觀念を與ふべし 二、本道の季候が太平洋日本海オホーツク海の三面により異る所以を知らしむべし 三、本道の地勢をば十字形なる分水線によりて四斜面と半島部とに分ち位置、季候、地勢によりてこの各地勢區の效用に大小あることを知らしむべし 四、本道の富源を考へしめ邦人が將來活動し得べき餘地を知らしむべし 五、半島部の要地たることを知らしむべし 六、石狩川流域の開拓及將來の形勢を考へしむべし 七、アイヌ人種につきては生存競爭の事をしらしむべきなり

一、他産と比較して本縣に産する陶器の長所及特徴を知らしむべし

第二五週 **長崎縣** （二時間）

一、本縣の海岸線が尤よき形をなせることを見さすべし
二、海岸線及島嶼の散布が漁業に關係する事を知らしむべし
三、對馬、壹岐、大村灣、長崎港等が軍備、通商交通に於ける要地たる事を知らしむべし

第二六週 **熊本縣** （二時間）

一、本縣四境の要害及諸所の古戰場を示して西南の役の狀況を知らしむべし
二、本縣産の米質よき事を知らしむべし

第二七週 **宮崎縣** （一時間）

一、本縣に繁盛なる都邑なきは主として産業振はず肥沃廣濶なる平野なきと海岸線の屈曲少きに因ることを知らしむべし
二、その交通不便なるは頗る土佐に似たり
三、上古史に緣故ある高千穗の峰を話すべし

第二八週 **鹿兒島縣** （二時間）

一、本縣と高知縣とは地理事項に於て比較し得べきもの多し
二、鹿兒島と薩南諸島琉球諸島との交通商實の關係を知らしむべし
三、本縣の物産が南方諸島と關係せるを知らしむべし
四、維新豪傑の故郷として薩人の氣風までをも知らしむべし

第二九週 **臺灣** （四時間）

一、臺灣の季候、天産、生業、等を熱帶國として理解せしめ他日外國の熱帶國を學ぶ時の楷梯たらしむべし
二、地勢か臺灣山脈によりて東西二斜面に分るゝことを知らしめ住民、風土、開化、生業、物産等が凡べてこの二斜面によりて異なる事を知らしむべし
三、臺灣人の人情風俗を以て他日支那人の人情風俗を理解するの楷梯として生蕃人の人情風俗を以て他日南洋土人の人情風俗を理解せしむるの楷梯となし得べし
四、澎湖海峽は對馬朝鮮海峽の如く澎湖島は對馬の如く厦門等は釜山等の如しよくこの要害を解せしむべし

第三五週 **日本帝國總括** （二時間）

一、日本の緯度上の位置の良好なる事より季候、天産の完全なるを說き更に精しく山勢より分水線、斜面、河流、平地、季候、海岸線等を總括し天産、聚落、都邑、生業、工産交通に及びて一系統に檃括すべし
二、日本の政治上の位置の良好なることより將來の希望をのべ現今自活の事より外交貿易の事を說くべし
三、住民より國體及歷史を說き政治宗教人情風俗に及ぼし日本國の生活機關及生存の爲の活動を總括すべし

第三六週 **地球** （三時間）

一、地球の宏大なるを知覺せしむる爲海陸等の大さは必數の觀念によりて授くべし
二、水陸の大小位置形狀等の關係を知らしむべし
三、地軸傾斜の必要なる所以を悟らしむべし
四、經緯線の性質效用を明に了解せしむべし

地理科教授細目

高等小學科第三學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數　三十時間

週	教授事項及其注意
第二一週	**スウェーデン、ノールウェー**（一時間） 一、ノールウェーの海岸線及洋流と國民の漁業航海業との關係を知らしむべし 二、ノールウェーが北緯七十度に及びて尙都邑を有し得る所以を考へしむべし 三、夏冬晝夜の長短はロシヤ北部と比較して可なり
第二二週	**デンマルクと獨逸**（二時間） 一、デンマルクの位置の要害なること及英露との關係を知らしむべし 二、デンマルク及び獨逸に於て運河の使用を話すべし 三、獨逸人が世界中に於て尤教育の效果を知り又その效果を收めて今日の富强文明を致せる事を知らしむべし 學術の進歩が世界に冠たる事、工業の發達軍備の完成國人の愛國心等は其要項たるべし 四、獨逸の長所にして我國に取れる所を考へしむべし 五、井ルヘルム先帝がビスマルクと共になしたる事業を略

週	教授事項及其注意
第二九週	**イタリヤ**（二時間） 一、羅馬帝國時代及羅馬法皇時代の隆盛を說き現今西洋の文明は全く此國より出でたる事を知らしむべし 二、此國の地勢は頗る印度半島と比較すべく又風土等は我國に比較すべきものもあり
第三〇週	**バルカン半島**（二時間） 一、トルコ人種につき東洋との關係を話すべし 二、東洋人種の國として異教の國として政治風俗にまで此國が歐洲中に一異色を呈せる樣を解せしむべし 三、バルカン諸邦の獨立を以てトルコの盛衰を說き露土の關係を知らしむべし 四、ギリシヤの古を語り羅馬の前に於て西洋文明の祖國たるを知らしむべし
第三一週	**ヨーロッパ洲總括復習**（一時間） 一、ヨーロッパの位置、地勢、季候、天産、海岸線、をま

述し併せて聯邦の制を知らしむべし
六、獨逸人の氣風を知らしむべし

第二三週　オーストリヤ、ハンガリー　（一時間）

一、オーストリヤとハンガリーとの邦政上の關係を明にしスエーデン　ノールウエーの政體と比較すべし
二、ハンガリー人と東洋人との關係を知らしむべし
三、海岸の多少と外國貿易との關係を知らしむべし

第二四週　スイス　（一時間）

一、此國の國體及政體を知らせ面積我九州に等しき程の此小國もよく列强の間に介在し獨立の體面を維持し得るを知らしむべし
二、此國の位置及地勢をばアジアに於ける四藏に比して理解を便ならしむべし
三、此國の國體と赤十字社との關係につきて話すべし
四、海なき國の工業及輸出品として此國がよく擇みたるを思はしむべし
五、面積我が十分の一、人口殆んど十五分の一にして輸出入我に匹敵するは國民活動の致す所なるを思はしめよ

第二五週　フランス　（二時間）

一、ナポレオン一世以來此國政體の變遷を知らしめナポレオン一世の偉業を略述すべし
二、よく佛國人の長所及氣風を知らしむべし

三、我が國及東洋と商業及交通上の關係を說くべし

第二六週　ベルギーとオランダ　（一時間）

一、この二國の異同の點をよく比較して示すべし
二、德川時代に於ける我國とオランダとの通商交通上の關係を說き併せて十六七世紀頃に於ては世界第一の商業國として世界の海上權を左右せしこと等を說くべし
三、オランダは面積我が十三分の一弱人口凡我が十分の一その輸出入凡我が四倍に及びベルギーは面積オランダよりも稍小く人口凡我が七分の一なるも輸出入凡我が二倍なるは國民の商工的活動の大なるものあるに因れる事を思はしむべし

第二七週　イギリス　（三時間）

一、此國の面積位置排列地勢氣候海岸等の異同優劣を我國と比較して授くべし
二、我が同盟國として深き愛情を以て此國を迎へしめ且つ此國人の長所及品性を解せしむべし
三、此國をば世界に於ける商工の中心として理解せしめ倫敦以下諸地の商工景況を知らしむべし

第二八週　イスパニヤ及ポルトガル　（一時間）

一、天文年間より德川初代に至るまでの間に於ける我が國と此二國との通商交通上の關係を說き附して此國人の往時の大事業を語り古今の盛衰に及ぶべし
二、此二國は天然人文の地理に於て比較し得べきもの多ければよく比較して授くべし

第三七週　メキシコ、中央アメリカ諸國　（一時間）

一、我國と合衆國との交通貿易關係の親密なる事を知らしむべし
二、現今に於ける商工農鑛等の隆盛及將來更に大に發達すべき殖產興業の要素を備へたる事を知らしむべし
三、此國獨立の歷史大要を語り聞かせ且合衆國の意味を解せしむべし

第三八週　西印度諸島　（一時間）

一、パナマ及ニカラガ運河開鑿の曉に於ける東洋貿易に至大の關係を有することを想像せしむべし
二、西印度の近來までのスペインとの關係を知らしむべし

第三九週　南アメリカ洲　（三時間）

一、地形地勢を北アメリカと比較して理解せしむべし
二、本洲と北アメリカとは同時に發見せるにも拘らず其開化の後れたる所以を考へしむべし
三、本洲とスペインとの人文地理上の關係を考へしむべし
四、本洲の季候に關係せる特殊の物產を知らしむべし

第四〇週　總括　（一時間）

一、世界列國及諸民族の活動及勢力扶植をまとめ今日以後に來るべき生存競爭を想像せしむべし
二、世界中に於ける天然と文明との關係を見させ勢力及文明の要素を考へしむべし
三、主要なる世界の地理事項を項目に概括すべし

地理科教授細目

高等小學科第四學年　後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數　三十時間

週	教授事項及其注意
第二一週 第二二週	**人種人口及言語**　（四時間） 一、世界諸人種の優劣を比較しその各が現今に有する智能開化の程度及勢力の多少を知らしめ過去將來を既さて生存競爭の事を解せしむべし 二、世界の人類が平均に占むる土地人口の割合と我國の土地人口の割合を比較すべし 三、現時勢力ある言語の分布及び言語が國勢の扶植に關係することを知らしむべし 四、例を内外にとりて言語の統一が國家の强固に關係するを知らしむべし
第二三週 第二四週 第二五週 第二六週 第二七週 第二八週	**政治附兵備**　（九時間） 一、大權の位置によりて世界各國の國體政體を既き我が國體の特質をしらしむべし（凡て實例を擧ぐるを要す） 二、我が國に於ける三權の分立及その執行に付き了解せしむべし 三、兵役に付けて護國義務の精神を話すべし 四、西洋諸强國の兵備の概要を知らしめ以て近隣列强に對する軍備の必要及平時に於ける軍備の必要を了解せしむべし
第二九週 第三〇週	**教育と宗教**　（三時間） 一、我が國古今教育の比較及現時に於ける諸文明國教育の狀況を語り以て國民團體の生存競爭に關係することを知らしむべし 二、我が國の學校系統と外國の學校系統を表示して長短を比較すべし 三、諸宗教の特質を語り宗教が國民の氣風國家の强弱に關係する事を既きその影響の偉大なることを知らしむべし
第三一週 第三二週 第三三週 第三四週 第三五週	**産業**　（六時間） 一、生業の發達するには人類の智能發達と伴へる順序ありよく其理法を知らしめ又生業の發達は天然と人の智能と相俟つて行はるるものなりよくこれを理解せしむべし 二、生業はよく其土地を利用して生産をなすにあり我が國生業の現況は牧畜、航海、貿易、造林、工藝の外頗よく發達し居る事を知らしむべし 三、生業は地理的民種的に世界的又は國家的分業をなせることを知らしめその我が國にて營める世界的分業及我が國内の各地方各都市にて營める國家的分業を知らしむべし 四、外國貿易については我國の輸出入と西洋東洋列國の輸出入とを比較し又輸出入外國との關係を知らしむべし 五、外國貿易については輸出入に關する經濟上の道理及關稅の趣旨をも知らしむべし 六、産業に原産業と工業と分配運搬業とあり皆貨物の量額を增し或は價値を增すものなり是等を授くる時土地、勞力、資本の關係をしらせ又國家經濟の思想を與ふべし
第三六週 第三七週 第三八週	**商業**　（三時間） （産業の條下に於いて共に言へるを以て此處に略す）
第三九週 第四〇週	**交通**　（三時間） 一、交通線の現今主要視せらるゝは陸にては鐵道水にては航路なり、外國にても地理教科の材料には鄕土誌の外は大抵道路を加へず故に交通機關としては鐵道、航路船舶、電信、郵便、電話をいはゞ可なり 二、世界列國に於ける交通機關の設備を比較して示すべし 三、交通線と豐産地と政治商工の中心地との關係を見さすべし 四、我が國交通機關の沿革を略既すべし
	總括　（二時間） 一、世界の形勢を見させ世界に於ける勢力の中心を見させその勢力を分解してその要素を見さすべし 二、我が國が世界に於ける地位を知らしめ世界の勢力に對する措置を考へしむべし

理科教材配當表（後期分）

數字は教授豫定時數なり

週／學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
二一	衣服ノ原料 草 3	秋ノ山 柿、蜜柑 3	食物 飲料水 2	交通機關 汽車ト汽船 4
二二	衣服ノ原料 綿 3	秋ノ山 松茸 2	食物 食鹽 2	交通機關 軍艦ト水雷 4
二三	衣服ノ原料 麻 1	秋ノ山 紅葉 2	食物 飯ト「パン」 2	交通機關 電信 4
二三	紙ノ原料 楮 2	海ノ植物 昆布 2	食物 肉ト野菜 2	交通機關 電鈴 2
二四	秋ノ庭 菊 2	海ニ棲ム獸 鯨 2	食物 酒ト酢 3	交通機關 電話 2
二五	秋ノ庭 根分ケ挿木 1	海ニ棲ム獸 腦 1	食物 腐敗ト消毒 2	交通機關 電車 3
二六	家ニ棲ム獸 猫 3	家屋ノ燃料 家屋ノ構造 2	食物 概說 1	交通機關 概說 1
二七	家ニ棲ム獸 鼠 2	家屋ノ燃料 木炭 1	人體ノ營養機關 胃ト腸 4	雷電 雷 2
二八	人體ニ寄生スル蟲 條蟲 2	家屋ノ燃料 石炭 3	人體ノ營養機關 概說 1	雷電 避雷針 2
二九	人體ニ寄生スル蟲 蛔蟲 2	家屋ノ燃料 石油 1	人體ノ營養機關 心臟 3	地球ト日 不倒翁 2
三〇	冬ノ山 風、雨、霜、雪 2	家禽 鷄 2	人體ノ營養機關 肺臟 2	地球ト日 晝夜 2
三一	冬ノ山 花崗岩 3	家禽 鶯 2	人體ノ營養機關 皮膚ト腎臟 3	地球ト日 四季 2
三二	冬ノ山 砂岩 1	冬ノ庭 梅 2	人體ノ營養機關 概說 1	地球ト日 月 2
三三	冬ノ山 岩石崩壞 2	冬ノ庭 冬芽接木 1	動植物營養循環 葉 2	大陽系統 星 2
三四	有用金屬 金、銀、水銀 3	家畜 馬 2	動植物營養循環 莖ト根 2	大陽系統 生物ノ進化 2
三五	有用金屬 銅、亞鉛 3	家畜 牛 2	動植物營養循環 肥料 4	大陽系統 人類生存 2
三六	有用金屬 錫、鉛 2	家畜 羊 2	動植物營養循環 動植物ノ關係及概說 4	大陽系統 概說 2
三七	有用金屬 鐵 2	家畜 豚 2		
三八		家畜 犬 2		
三九	概說	概說		
四〇	4	4		

理科教授細目

第一學年　後學期　教授豫定時間　四十時

週	教授事項
第二一週	草綿（三時間） 一草綿の花、總苞 二果實の形態、生態、効用 三綿布の特質　四綿種の傳來 五紡績法の發達
第二二週	大麻（一時間） 一麻の形態、効用　二麻の製法 三麻布の特質
第二三週	楮（二時間） 一楮の形態、効用　二紙の製法 三日本紙の特質 四他の製紙原料及其製紙
第二四週	菊（二時間） 一菊の形態と人爲淘汰　二蒲公英との比較
第二五週	花崗岩（三時間） 一花崗岩の成因　二効用 三成分をなす礦物　四分解物の性狀、効用
第二六週	砂岩（一時間） 一砂岩の成因　二性狀 三効用
第二七週	岩石崩壞（二時間） 一岩石に及ぼす風、雨、霜、雪、及植物根の破壞作用 二土壞の種類 三植物生育との關係
第二八週	金、銀、水銀（三時間） 一金及銀の產地　二原鑛 三製法　四性狀 五効用　六水銀の性狀 七合汞　八鍍金

第二七週　根分ケ挿木　（一時間）
一菊の培養法
二根分ケ挿木（無性生殖法の利用）

第二六週　猫　（三時間）
一猫の習性と形態との關係
二効用　三類例
四食肉獸の概念

第二七週　鼠　（二時間）
一鼠の棲所　二習性と形態との關係
三人類に及ぼす害　四類例
五鼠類の概念

第二八週　條蟲　（二時間）
一條蟲の形態　二發生
三種類及中間宿主

第二九週　蛔蟲　（二時間）
一蛔蟲、十二指腸蟲（ヒゼンノムシ）の形態
二發生　三衞生上の注意

第三〇週　風、雨、霜、雪　（二時間）
一風、雨、雲、霧、露、氷、雪、霜、霰、雹の生ずる所以
二効用

第三六週　銅、亞鉛　（三時間）
一銅の產地　二原鑛
三性狀、効用　四亞鉛の性狀、効用
五眞鍮の製法、効用

第三七週　錫、鉛　（二時間）
一錫の性質、効用　二鉛の性質、効用
三青銅、白蠟、活字の製法、効用

第三八週　鐵　（二時間）
一鐵の原鑛　二三種の鐵の性狀、効用
三防鏽法　四鐵葉の製法

第三九週　概說　（四時間）
一地球の發達（火成岩及水成岩の成因地層の新舊）
二鑛物利用の歷史

理科教授細目

第二學年　後學期　教授豫定時數　四十一時

週	教授事項
第二一週	柿、蜜柑　（三時間） 一柿の果實の形態　二花との比較 三種子の散布と動物との關係 四蜜柑の果實の形態と人爲淘汰 五蜜柑の葉とカラダチの葉との比較
第二二週	茸　（二時間） 一松茸の形態　二蕃殖法 三効用　四類例
第二三週	紅葉　（二時間） 一紅葉の生ずる理　二紅葉樹の種類 三落葉と常綠葉との形態上の差異 四落葉樹常綠樹の種類
第二四週	昆布　（二時間） 一昆布の產地　二形態 三蕃殖法　四効用 五類例　六藻類の概念 七水產動物との關係
第二五週	
第二一週	鷄　（二時間） 一鷄の形態　二習性 三鳥類の飛翔の爲めに起れる形態上の特質 四飼育法　五類例
第二二週	鶩　（二時間） 一鶩の棲所　二習性と形態との關係 三効用　四飼育法 五類例　六水禽類の概念
第二三週	梅　（二時間） 一花の形態 二芳香と昆蟲との關係
第二四週	冬芽接木　（一時間） 一冬芽の形態、生態　二蒴芽の要件 三養液の通路　五接木の方法
第二五週	馬　（二時間） 一馬の形態　二習性

第二六週　鯨（二時間）
一鯨の棲所　二習性と形態との關係
三効用　四魚類との比較
五類例

第二七週　腦肭臍（一時間）
一腦肭臍の習性
二其形態と鯨類の形態との比較
三効用　四類例
五海獸の概念

第二八週　家屋ノ構造（二時間）
一家屋の種類　二材料
三目的　四建築上の注意
五家屋の發達史

第二九週　木炭（一時間）
一木炭の製法　二性質
三効用

第三〇週　石炭（三時間）
一石炭の所在　二種類
三成因　四性狀
五効用、（石炭瓦斯の性狀、効用、製法、副產物の効用）

第三五週　石油（一時間）
一石油の所在　二成因
三性狀
四効用（製法及副產物の効用）

第三六週　牛（二時間）
一牛の形態　二習性
三敵動物との關係　四効用
五製乳

第三七週　羊（二時間）
一羊の形態習性と牛との比較
二効用　三類例
四草食獸の概念

第三八週　豚（二時間）
一豚の形態　二習性
三効用　四猪との關係
五動物變性の利用　六牧畜の重要

第三九週　犬（二時間）
一犬の習性と形態との關係
二猫との比較
三牛馬との形態上の差異
四効用　五類例

第四〇週　概說（四時間）
一動植物の自然淘汰及人爲淘汰
二動物の人類に對する關係
三動物の分類

理科教授細目

第三學年　後學期　教授豫定時數　四十時

週	教授事項	教授事項
第一週	飲料水（二時間） 一飲料水の選擇　二水濾器 三木炭の性質効用	第一一週　心臟（三時間） 一血液　二心臟 三血管　四脈搏 五血液循環
第二週	食鹽（二時間） 一食鹽の製法　二鹽田 三鹽酸　四醬油 五味噌	第一二週　肺臟（二時間） 一鼻　二喉 三氣管　四肺臟 五胸　六横隔膜 七呼吸
第三週	飯ト パン（二時間） 一澱粉　二糊 三砂糖　四砂糖精製 五パン　六小麥の用途	第一三週　皮膚ト腎臟（三時間） 一皮膚　二毛髮 三汗腺　四腎臟 五膀胱　六尿
第四週	肉ト野菜（二時間） 一蛋白質　二豆腐 三ニガリ　四牛乳 五バター	第一四週　概說（一時間）
	酒ト酢（三時間）	

第五週
一酒と燒酎　二ミリン
三葡萄酒　四甘酒
五飴　六ビール
七醱酵

第六週
腐敗ト消毒　（二時間）
一腐敗　二防腐
三鑵詰　四鹽漬
五乾物　六石灰の性質用途
七石炭酸の性質用途

第七週
概說　（一時間）
一人生と食物との關係
二食物の選擇

第八週
胃ト腸　（四時間）
一齒　二舌
三味　四唾腺（澱粉消化）
五食道　六胃の構造
七胃腺（蛋白質消化）　八腸の構造
九肝臟　一〇膵臟
一一腸腺（脂肪蛋白質澱粉消化）
一二淋巴管　一四門脈

第一〇週
概說　（一時間）
一消化器の衞生と食物との關係

第一五週
一人體の營養分循環の有樣
葉　（二時間）
一葉の構造　二葉綠
三澱粉の生成　四同化作用
五呼吸作用

第一六週
莖ト根　（二時間）
一莖及根の構造　二循環及呼吸作用

第一七週
肥料　（四時間）
一灰　二石灰
三人糞　四人尿
五干鰮　六アンモニア
七硝石　八消酸硫酸の性質用途
九過燐酸石灰

第一八週
動植物ノ關係及概說　（四時間）
一動植物の關係
二炭素窒素の自然界に於ける循環
三物質不滅

理科教授細目

第四學年　教授豫定時數　四十時

後學期

週	教授事項	週	教授事項
第一週	汽車ト汽船　（四時間） 一蒸氣機關　二スクリユー 三艪　四鐵道 五針面　六楔 七ネヂ	第一一週	雷　（二時間） 一二種の發電　二電氣盆 三レイデン瓶　四放電
第二週	軍艦ト水雷　（四時間） 一鋼鐵　二比重 三游泳　四大砲 五彈丸　六火藥 七綿火藥　八花火	第一二週	避雷針　（二時間） 一空中電氣　二落雷 三避雷針　四光と音の速度
第三週	不倒翁　（二時間） 一重力　二重心 三釣合　四不倒翁 五合力　六紙鳶	第一三週	晝夜　（二時間） 一自轉　二遠心力 三北斗星　四晝夜
第四週	無煙火藥　（二時間） 一人造絹絲　一〇人造象牙 一三ヒヽ藥　一一グリセリン 一五水雷　一四ダイナマイト 一六地雷	第一四週	四季　（二時間）

第五週 電信（四時間）
一電池（ブンゼン）　二メツキ
三電磁石　四電信
五無線電信

第六週 電鈴（二時間）
一電鈴　二重クロム酸電池
三表示器

第七週 電話（二時間）
一電話機の構造（尤も簡單なるもの）
二使用法

第八週 電車（三時間）
一ダイナモ　二電氣扇
三電車　四電燈

第九週 概說（一時間）
一文明利器の發達

第一〇週 一公轉　二四季
三曆

第一一週 月（二時間）
一月の盈蝕　二潮汐
三日蝕月蝕

第一二週 星（二時間）
一八遊星の名稱、位置
二太陽系統の成因及生命

第一三週 生物ノ進化（二時間）
一人類の祖先　二生物の進化

第一四週 人類ノ生存（二時間）
一人類の出生　二生存競爭

第一五週 概說（二時間）
一太陽系統と生物との關係
二自然の力　三エネルギーの不滅
四自然の利用

圖畫科教授細目

尋常小學科後學期（十月十六日ヨリ三月末日マデ）教授豫定時數

第二學年 二十時
第三學年 四十時
第四學年 定時數なり
數字は教授豫

第二學年

第二一週 扇子 1
第二二週 記憶畫（扇子） 1
第二三週 太鼓 教具、玩具ノ太鼓、 2
第二四週
第二五週 柿 教具、柿ノ果實、 1
第二六週 梨 教具、梨ノ果實、 1
第二七週 工夫畫 柿ト梨、 1
第二八週 はご板 1

第三學年

第二一週 軍艦 教具、玩所（簡單ナル軍艦ノ模型） 2
第二二週 工夫畫 軍艦ヲ基礎トシテ「海ばた」ヲ畫カシム、 2
第二三週 運動帽子（寫生畫） 2
第二四週 こまと絲 2
第二五週 らんぷ 教具、らんぷノ實物、 3
第二六週 記憶畫 1
第二七週 ちょーちん 教具、開、閉二種ノ灯燈、 3
第二八週 工夫畫 2

第四學年

第二一週 火鉢（寫生畫） 教具、圓筒形火鉢ノ實物、 2
第二二週 工夫畫 火鉢ヲ基礎トシテ畫カシム、 2
第二三週 夏ノ帽子 教具、麥稈帽子、 2
第二四週 眼鏡 2
第二五週 瓢丹（寫生畫） 3
第二六週 記憶畫 1
第二七週 工夫畫 瓢丹ト盃トヲ結合シテ畫カシム、 2
第二八週 水入（寫生畫） 2

第二九週	はね（はこ板ニ附屬セルモノ）	1
第三〇週	工夫畫 はこ板トはね、	1
第三一週	隨意畫	1
第三二週	おもちやノ馬 教具、玩具の馬模型、	2
第三三週		
第三四週	おもちやノ天神樣 教具、玩具ノ人形、	2
第三五週		
第三六週	工夫畫 馬ヲ基礎トシテ畫カシム、	2
第三七週		
第三八週	筆	1
第三九週	隨意畫	2
第四〇週		

	らんぷト本、	
	隨意畫	1
	兎 教具、兎ノ模型標本、	3
	記憶畫（兎）	1
	盆（寫生畫） 教具、丸キ盆ノ實物、	2
	盃ト碗（寫生畫）	3
	工夫畫 盆上ニ盃ト碗、	2
	隨意畫	1
	ばけつ（寫生畫）	2
	大根トかぶら 教具、實物、	3
	隨意畫	1
	茶瓶（寫生畫）	2
	工夫畫 茶瓶ト茶碗結合セシム、	2

	植木鉢	2
	記憶畫（植木鉢）	1
	工夫畫	1
	隨意畫	2
	ねずみ	2
	記憶畫（鼠）	1
	兎（寫生畫）	3
	ないふ	2
	寒暖計（寫生畫）	2
	掛軸	2
	工夫畫 掛軸ニ既授ノ畫ヲ畫カシム、	2
	日本地圖	2
	隨意畫	2

圖畫科教授細目

高等小學科後學期（十月十六日ヨリ三月末日マデ）

教授豫定時數

第一學年 第二學年 第三學年 四十時
第四學年 二十時

數字は教授豫定時數なり

學年／週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
第二一週	南瓜ト茄子 教具、實物、 3	鯛ト釣リ竿 2	鶴（寫生畫） 教具、鶴ノ標本、 2	記憶圖（用器畫） 1
第二二週	記憶畫 1	記憶畫 1		
第二三週	きゅーりト眞瓜（寫生畫） 2	工夫畫 1		からすノ瓜（寫生畫） 教具、蔓、瓜、葉ノ實物、 2
第二四週	卷き物 教物、開キカケタル卷キ物、 2	人參トくわい（寫生畫） 2	松 2	緯線經線ヲ畫ク法（用器畫） 1
第二五週	工夫畫 卷キ物ヲ基礎トシテ畫カシム、 2	雉子 教具、模型、標本、 3		
第二六週	竹こま（寫生畫） 2	隨意畫 1	工夫畫 松ト鶴或ハ植木鉢ニ松、 2	植木鉢ニもみぢ（寫生畫） 2
第二七週	いんく壺トぺん 3	工夫畫 鳥ヲ基礎トシテ畫カシム、 2		
第二八週	記憶畫 1	あひる（寫生畫） 2	とんぼ（寫生畫） 2	記憶圖（用器畫） 1
		瓦斯燈 2		少女 2

週	尋常	高等
第二九週	洋綴書物トいんく壺（寫生畫） 2	豆太鼓ト笛 教具、玩具、 3
第三〇週	工夫畫 手帳トいんく壺及べん、 2	記憶畫 1
第三一週	かまきり蟲 3	猫 2
第三二週	柿（寫生畫） 3	犬（寫生畫） 教具、犬模型標本、 2
第三三週	教具、果實ニ葉ノ附セルモノ模型若クハ實物、	工夫畫 雪ノ上ニ犬、 2
第三四週	隨意畫 2	雪だるま 2
第三五週	鉢に植木セルモノ 3	ほていさん（寫生畫） 教具、玩具ほてい、 3
第三六週	記憶畫 1	隨意畫 1
第三七週	帽子ト杖（寫生畫） 2	小鳥 2
第三八週	椿 2	家 2
第三九週	鼠 2	外景 2
第四〇週	隨意畫 2	工夫畫 既授ノ畫ヲ結合シテ景色畫ヲ畫カシム、 2

週	尋常	高等
第四〇週		記憶畫（とんぼ） 1
第四一週	神社 教科中ニテ既習セシモノニ付テ畫カシム、 3	應用圖（用器畫） 1
第四二週	軍人（將校） 2	工夫畫 軍人ヲ基礎トシテ畫カシム、 2
第四三週	鯛（寫生畫） 2	雪ノ景色 2
第四四週	兵士 2	應用圖（用器畫） 1
第四五週	記憶畫（兵士） 1	我國ノ地圖 1
第四六週	机ト椅子（寫生畫） 2	隨意畫 2
第四七週	隨意畫 1	

圖畫科教授細目

尋常小學科第三、四學年
高等小學科第一、二學年（女）

後學期（十月十六日ヨリ三月末日マデ）教授豫定時數 各二十時

數字は教授豫定時數なり

週	尋常 第三學年	尋常 第四學年	高等 第一學年	高等 第二學年
第二一週	こまト絲 2	火鉢（寫生畫） 2	南瓜ト茄子 3	鯛ト釣リ竿 2
第二二週				
第二三週	記憶畫 1	麥稈帽子 2		記憶畫 1
第二四週	らんぷ 2			工夫畫 1
第二五週			きゅりト眞瓜（寫生畫） 2	にはとりト雛 3
第二六週	工夫畫 1	工夫畫 1		
第二七週	ちょーちん（寫生畫） 2	瓢丹（寫生畫） 2	卷き物 2	
第二八週		水入 2	工夫畫 2	あひる（寫生畫） 2

週	教授事項	教授事項	教授事項	教授事項
第二九週	兎 2	記憶畫 1	いんく壺トべん（寫生畫） 3	猫 2
第三〇週				
第三一週	盆（寫生畫） 2	もみぢ 2	工夫畫 書物トいんく壺及べん 1	犬（寫生畫） 2
第三二週				
第三三週	茶碗 1	工夫畫 植木鉢ニもみぢ、 2	椿花 2	工夫畫 猫トまり 2
第三四週				
第三五週	工夫畫 盆上ニ茶碗、 2	ねずみ 2	かんざし 2	雪だるま 1
第三六週				
第三七週	大根トかぶら（寫生畫） 2	日本地圖 2	記憶畫 1	小鳥 2
第三八週				
第三九週	かんざしト櫛 2	隨意畫 2	隨意畫 2	隨意畫 2
第四〇週	隨意畫 1			

尋常小學科（多級用）

後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數 二十時

週／學年	第一學年 教授事項	第二學年 教授事項	第三學年 教授事項	第四學年 教授事項
第二一週	君が代（三時間）	天長節（四時間） 君が代練習	皇御國（四時間） （小學唱歌集） 天長節練習	廣瀬中佐（四時間） （戰捷軍歌 軍神 廣瀬中佐） 天長節練習
第二二週				
第二三週				
第二四週				
第二五週	まなべ（四時間） （小學唱歌）	あふぎみよ（三時間） （小學唱歌）	朝日の御旗（四時間） （尋常小學修身書）	二宮尊德（四時間） （國民教育新撰唱歌）
第二六週				
第二七週				
第二八週	小隊（四時間） （小學唱歌）	一月一日（四時間） 君が代練習	雨露（四時間） （小學唱歌集） 一月一日練習	恭儉博愛（四時間） （小學唱歌） 一月一日練習
第二九週				
第三〇週				
第三一週				
第三二週	御馬（四時間）	紀元節（五時間） 一、四、の歌		
第三三週				

第三四週	（123唱歌集）		
第三五週			
第三六週	友どち（四時間）（幼稚園唱歌集）	君が代練習	紀元節（全部）（四時間）君が代練習
第三七週		送別の歌（一）（三時間）	運動會（四時間）（新編教育唱歌集）紀元節練習
第三八週			
第三九週			
第四〇週	練習	練習	練習

備考

尋常第二學年より課する送別の歌は歌詞を（新編教育唱歌集）より樂曲を（小學唱歌集）螢の光より引用す後學期細目調製に付きて更に引用せし書目左に

一 戰捷軍歌 軍神 廣瀨中佐　修文館
一 國民教育 新撰唱歌　田村虎藏

尋常小學科（合級用）後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數 二十時

學年 ／ 週	第三、四學年（男）甲年 教授事項	第三、四學年（男）乙年 教授事項	第三、四學年（女）甲年 教授事項	第三、四學年（女）乙年 教授事項
第二一週				
稅二二週	皇御國（四時間）（小學唱歌集）天長節練習	廣瀨中佐（四時間）（戰捷軍歌 軍神廣瀨中佐）天長節練習	廣瀨中佐（四時間）（戰捷軍歌 軍神廣瀨中佐）天長節練習	皇御國（四時間）（小學唱歌集）天長節練習
第二三週				
第二四週				
第二五週				
第二六週	朝日の御旗（四時間）（尋常小學修身書）	恭儉、博愛（四時間）（小學唱歌）	恭儉、博愛（四時間）（小學唱歌）	朝日の御旗（四時間）（尋常小學修身書）
第二七週				
第二八週				
學二九週				
第三〇週	運動會（四時間）（新編教育唱歌集）一月一日練習	雨露（四時間）（小學唱歌集）一月一日練習	雨露（四時間）（小學唱歌集）一月一日練習	運動會（四時間）（新編教育唱歌集）一月一日練習
第三一週				
第三二週				

週	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
第三三週	紀元節全部（四時間）君が代練習	紀元節全部（四時間）君が代練習	紀元節全部（四時間）君が代練習	紀元節全部（四時間）君が代練習
第三四週				
第三五週				
第三六週				
第三七週	送別の歌全部（三時間）甲の組には螢の光（小學唱歌集）の一、二の歌を授く	送別の歌全部（三時間）甲の組には螢の光（小學唱歌集）の一、二の歌を授く	送別の歌全部（三時間）甲の組には螢の光（小學唱歌集）の一、二の歌を授く	送別の歌全部（三時間）甲の組には螢の光（小學唱歌集）の一、二の歌を授く
第三八週				
第三九週				
第四〇週	練習	練習	練習	練習

備考

送別の歌は歌詞を（新編教育唱歌集）より樂曲を（小學唱歌集）螢の光より引用す

後學期細目調製に付きて更に引用せし書目左に

一 戰捷軍歌 軍神廣瀨中佐　修文館

一 國民教育 新撰唱歌　田村虎藏

高等小學科（多級用、男）後學期（十月十六日より三月末日まで）教授豫定時數 二十時

週 ／ 學年	第一學年 教授事項	第二學年 教授事項	第三學年 教授事項	第四學年 教授事項
第二一週	天長節練習	日光（新撰日本唱歌）（四時間）天長節練習	富士山（唱歌教科書）（三時間）天長節練習	鏡ヶ浦驟雨（四時間）（新撰國民唱歌）天長節練習
第二二週	君が代練習（三時間）（略符も示すべし）			
第二三週				
第二四週				
第二五週	日本男兒（三時間）（唱歌教科書）	日本海（三時間）（新撰國民唱歌）	コロンブス（三時間）（唱歌教科書）	驅逐隊の夜襲（三時間）（戰捷軍歌）
第二六週				
第二七週	忍耐（三時間）（小學唱歌）	仁川の海戰（四時間）（戰捷軍歌）一月一日練習	平重盛（四時間）（國民教育新選唱歌）一月一日練習	日本刀（三時間）（唱歌教科書）一月一日練習
第二八週				
第二九週				
第三〇週	一月一日練習（二時間）略符も示すべし			
第三一週				
第三二週	紀元節練習（三時間）略符も示すべし	國憲（三時間）（國教唱歌集）紀元節練習	我が陸軍（三時間）（唱歌教科書）紀元節練習	御國の民（五時間）（新編教育唱歌集）紀元節練習
第三三週				